別添

# 敬老パス市民アンケート結果

**○アンケートの目的**

平成２３年度に実施された行政評価（外部評価）において、「見直し」の判定を受けた敬老パス制度について、現行の敬老パス制度に対する意識や利用実態等を調査し、第６回以降の「今後の高齢者の生きがい施策のあり方検討分科会」の検討資料とするため実施するもの。

**○調査概要**

敬老パス制度に関するアンケート調査の概要は以下のとおりである。

**（１）調査対象者**

65 歳以上の方 3,000 名、20～64 歳の方 3,000 名、合計 6,000 名を対象とする。

**（２）調査対象者の抽出方法**

住民基本台帳に基づく無作為抽出

**（３）調査方法**

郵送配布・郵送回収

**（４）配布回収結果**

高齢者向けアンケートは、対象 3,000 人に対し、有効回収数は 2,083 人であり、有効回収率は 69.4％となった。20～64 歳の方向けアンケートは、対象 3,000 人に対し、有効回収数は 1,304 人であり、有効回収率は 43.5％となった。両者を合わせた有効回収率は全体で 56.5％である。

**表　配布回収結果**

| 区分 | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|---|---|---|---|
| 高齢者（65 歳以上） | 3,000 部 | 2,083 部 | 69.4％ |
| 20～64 歳の方 | 3,000 部 | 1,304 部 | 43.5％ |
| 合計 | 6,000 部 | 3,387 部 | 56.5％ |

**（５）結果概要**

敬老パス制度に関するアンケート調査の概要は以下のとおりである。

表　敬老パス制度に関するアンケート調査結果の概要

【高齢者アンケート】

| 設　問 | 結果の概要 |
|---|---|
| １－１.性・年齢 | 前期高齢者（65～74 歳）が約 54%、後期高齢者（75 歳以上）が約 46%である。なお、男女比は男性が約 42%、女性が約 58%である。 |
| １－２.区別回答者数 | 高齢者人口の多い緑区、中川区、北区、千種区等の回答が多く、区別の回答率に極端な相違は見られない。 |
| １－３.世帯構成 | 高齢者夫婦のみ、単身世帯は、合わせて約 60%である。 |
| １－４.自動車の保有状況 | 自分の車、家族の車の使用者は約 65%である。 |
| １－５.自動車の利用状況 | 高齢者の自動車保有世帯での自動車の平均利用回数は週 5.5 回である。 |
| １－６.自動車の運転免許の有無 | 自動車普通免許の保有は約 44%である。 |
| １－７.介護保険の要支援・要介護認定状況 | 介護保険の認定を受けていない・非該当の人が約 87%である。 |
| １－８.普段の外出回数 | 高齢者の普段の外出回数は平均週 7.3 回である。 |
| １－９.自宅から最寄りの駅・バス停等までの平均所要時間 | 自宅から最寄りの駅・バス停等までの徒歩による平均所要時間は 8.4 分である。 |
| １－１０.段差などによって利用を差し控えたこと | 段差等があることで地下鉄・市バス等の利用を控えたことがある人は約 13%である。 |
| １－１１.仕事の有無 | 仕事をしている人が約 22%、していない人が約 70%である。 |
| １－１２.年間の総収入額 | 300 万円未満が約 79%であり、100 万円未満が約 34%である。 |
| １－１３.敬老パスの一部負担金の額 | 自身の一部負担金の額が分からない人は約 13%である。 |
| １－１４.敬老という言葉について | 抵抗がないとする人は約 77%である。 |
| １－１５.対象年齢について | 現行の 65 歳以上でよいとする人が約 52%、年齢を引き上げるべきとする人は約 33%である。なお、年齢を引き上げるべきとする人の具体的な引き上げ年齢は 70 歳が約 76%である。 |

| | |
|---|---|
| １－１６.利用者の一部負担金について | 現行のままでよいとする人が約 64%、一部負担金を引き上げるべきとする人は約 20%である。 |
| １－１７.利用限度額・上限額を設けることについて | 現行のままでよいとする人が約 67%、利用限度額・上限額を設けるべきとする人は約 18%である。 |
| １－１８.敬老パスの交付の有無 | 交付を受けている人が約 76%である。 |
| １－１９.敬老パスの利用回数 | 敬老パスの利用回数は平均週 3.4 回（片道利用を 1 回）である。 |
| １－２０.敬老パスを利用する時間帯 | 昼間時（10 時～16 時）の利用割合は約 77%である。 |
| １－２１.敬老パスを利用する曜日 | 平日のみ利用している人は約 46%である。 |
| １－２２.利用している交通機関 | 地下鉄とバスを乗り継いで利用している人は約 52%である。 |
| １－２３.敬老パスの利用目的 | 家事・買物が約 56%、病院等への通院が約 50%である。 |
| １－２４.敬老パスがない場合の対応 | 自分で乗車券を買う人が約 59%であり、車（自家用車やタクシー）を使う人は約 13%である。敬老パスがないと出かけない人は約 16%である。 |
| １－２５.敬老パスがないと困ること | 病院等への通院が約 55%、家事・買物が約 54%である。 |
| １－２６.敬老パスがあることで増える外出回数 | 敬老パスがあることで増える外出回数は週 1 回未満が約 26%である。 |
| １－２７.敬老パスを利用して出かけた時の 1 回当たりの消費額 | 敬老パスを利用して出かけた時の 1 回当たりの消費額は 5,000 円～6,000 円が約 18%である。なお、1 回当たりの平均消費額は約 4,200 円である。 |
| １－２８.利用者の一部負担金に対する意向 | 一部負担金の金額に負担を感じていない人（安いと思う、それほど高いとは思わない）は約 81%である。 |
| １－２９.敬老パスと健康 | 敬老パスが健康に役立っていると思う人(とても役立ってる、やや役立っている)は約 86%である。 |
| １－３０.敬老パスの交付を受けていない理由 | 自動車利用（自分で運転、家族の送迎）が約 67%、あまり遠くに出かけないが約 26%である。 |

【20～64歳の方アンケート】

| 設　問 | 結果の概要 |
|---|---|
| ２－１.性・年齢 | 50歳代が約25％、40歳代が約23％である。なお、男女比は男性が約42％、女性が約58％である。 |
| ２－２.区別回答者数 | 人口の多い緑区、中川区、千種区、北区、西区等の回答が多く、区別の回答率に極端な相違は見られない。 |
| ２－３.世帯構成 | 二世帯同居（親・子）が約61%、夫婦のみが約17%である。 |
| ２－４.職業 | 有職者は約 67％（会社員・公務員は約 40%）、無職者は約9%である。 |
| ２－５.自動車の保有状況 | 自分の車、家族の車の使用者は約86%である。 |
| ２－６.自動車の運転免許の有無 | 自動車普通免許の保有は約86%である。 |
| ２－７.敬老パス制度に対する意向 | 自分も将来使ってみたいが約 40%、使うかどうか分からないがよい制度であると思うが約 29%、家族等が使っておりよい制度であると思うが 17%であり、合わせて約 85%はよい制度であると評価している。あまりよい制度でないと思うは約7%である。 |
| ２－８.敬老という言葉について | 抵抗がないとする人は約68%である。 |
| ２－９.対象年齢について | 現行の65歳以上でよいとする人が約70％、年齢を引き上げるべきとする人は約 23%である。なお、年齢を引き上げるべきとする人の具体的な引き上げ年齢は 70 歳が約 76%である。 |
| ２－１０.利用者の一部負担金について | 現行のままでよいとする人が約52％、一部負担金を引き上げるべきとする人は約39%である。 |
| ２－１１.利用限度額・上限額を設けることについて | 現行のままでよいとする人が約58％、利用限度額・上限額を設けるべきとする人は約33％である。 |

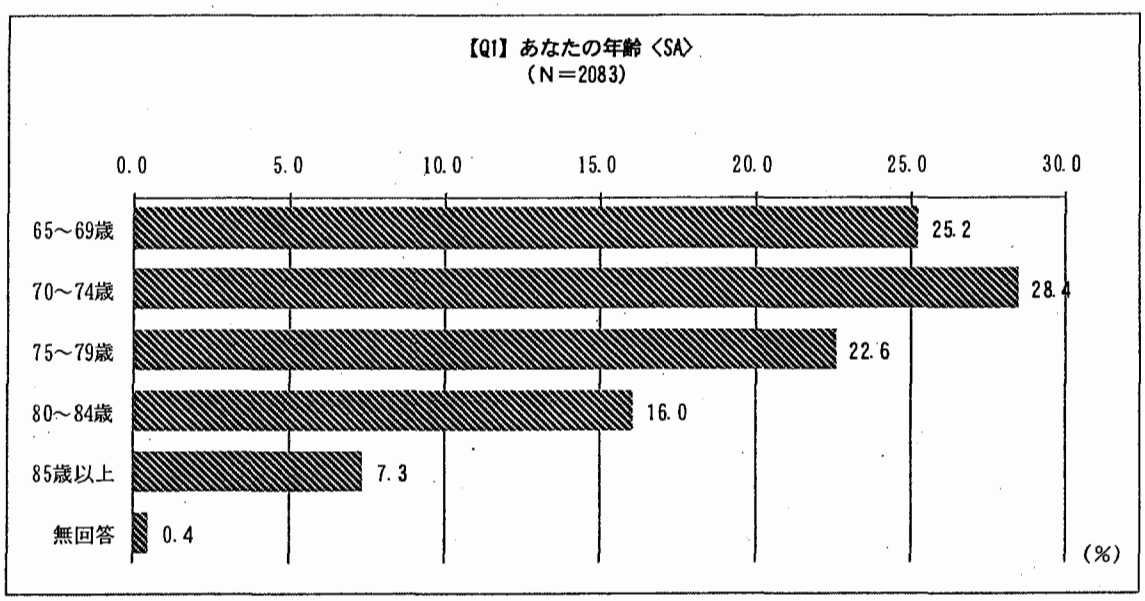
【高齢者と20～64歳の方の意見比較】

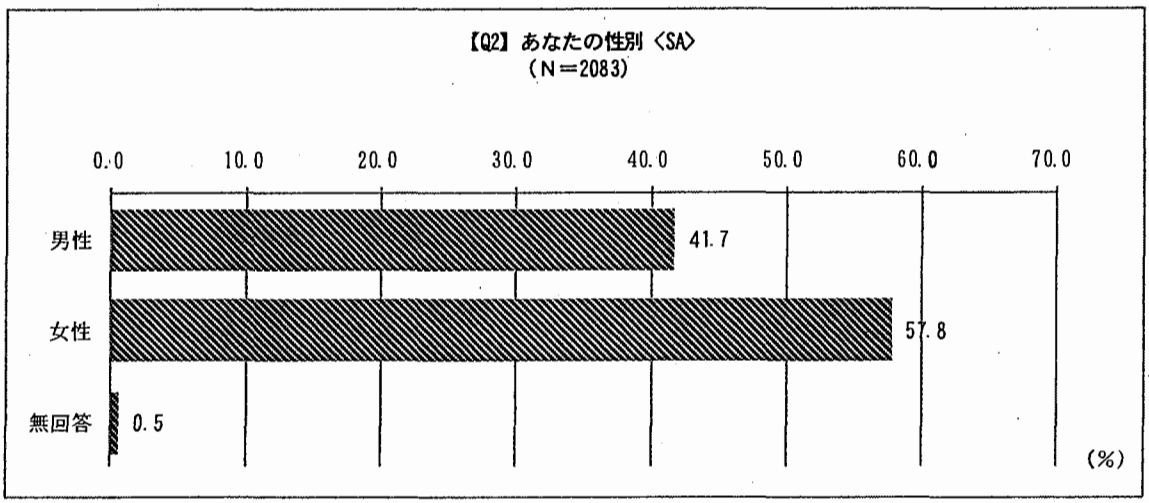
| 設　問 | 高齢者 | 20～64歳の方 |
|---|---|---|
| 1.敬老パス制度に対する意向 | ― | 約85%はよい制度と評価 |
| 2.敬老という言葉について | 抵抗なし　約77% | 抵抗なし　約68% |
| 3.対象年齢について | 現状のまま　約52%<br>引き上げ　約33% | 現状のまま　約70%<br>引き上げ　約23% |
| 4.利用者の一部負担金について | 現状のまま　約64%<br>引き上げ　約20% | 現状のまま　約52%<br>引き上げ　約39% |
| 5.利用限度額・上限額を設けることについて | 現状のまま　約67%<br>設ける　約18% | 現状のまま　約58%<br>設ける　約33% |

## 1　高齢者向けアンケート結果

### 1－1.回答者の性・年齢

前期高齢者（65～74 歳）53.6%、後期高齢者(75 歳以上)45.9%であり、85 歳以上の回答は 7.3%である。性別では、男性が 41.7%、女性が 57.8%である。



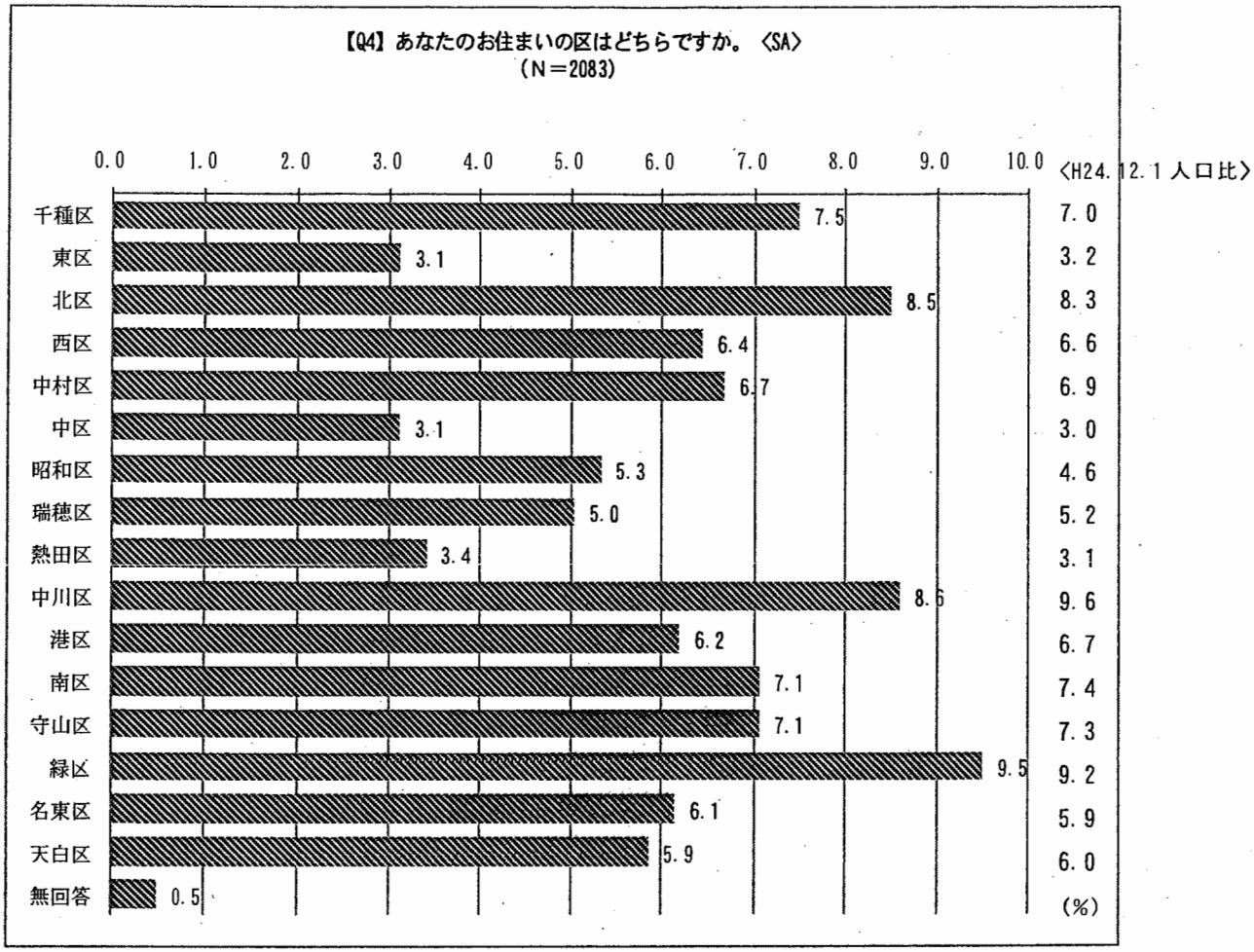




（参考:平成 24 年 12 月 1 日人口）

| 年齢別 | 男 | 女 | 男女計 | 縦構成比 |
|---|---|---|---|---|
| 65～69歳 | 66,408 | 69,898 | 136,306 | 27.5% |
| 70～74歳 | 57,241 | 66,788 | 124,029 | 25.0% |
| 75～79歳 | 45,074 | 58,907 | 103,981 | 20.9% |
| 80～84歳 | 28,370 | 43,340 | 71,710 | 14.4% |
| 85歳以上 | 17,695 | 42,754 | 60,449 | 12.2% |
| 年齢計 | 214,788 | 281,687 | 496,475 | 100.0% |
| 横構成比 | 43.3% | 56.7% | 100.0% | |

## １－２．区別回答者数

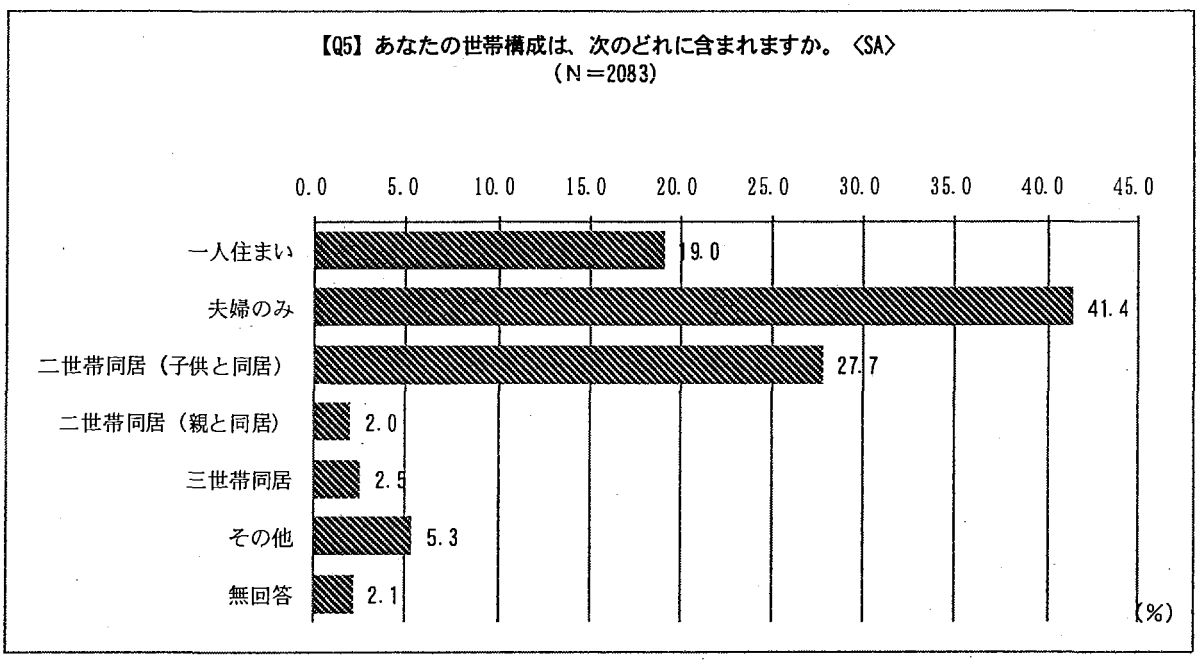
回答数は高齢者人口が多い緑区、中川区、北区、千種区で多く、人口に対する回答率に区別の極端な相違はない。




※郵便番号の集計は省略

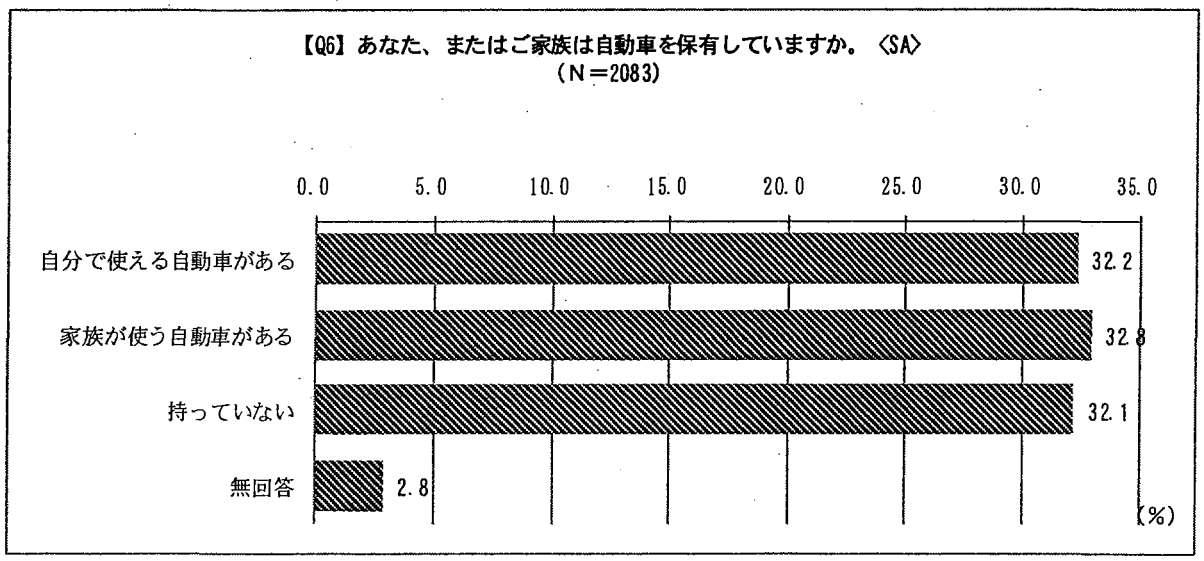
## １－３．世帯構成

「夫婦のみ」が最も高く 41.4%、二世帯・三世帯同居が 32.2%、一人住まいが 19.0%である。




## １－４．自動車の保有状況

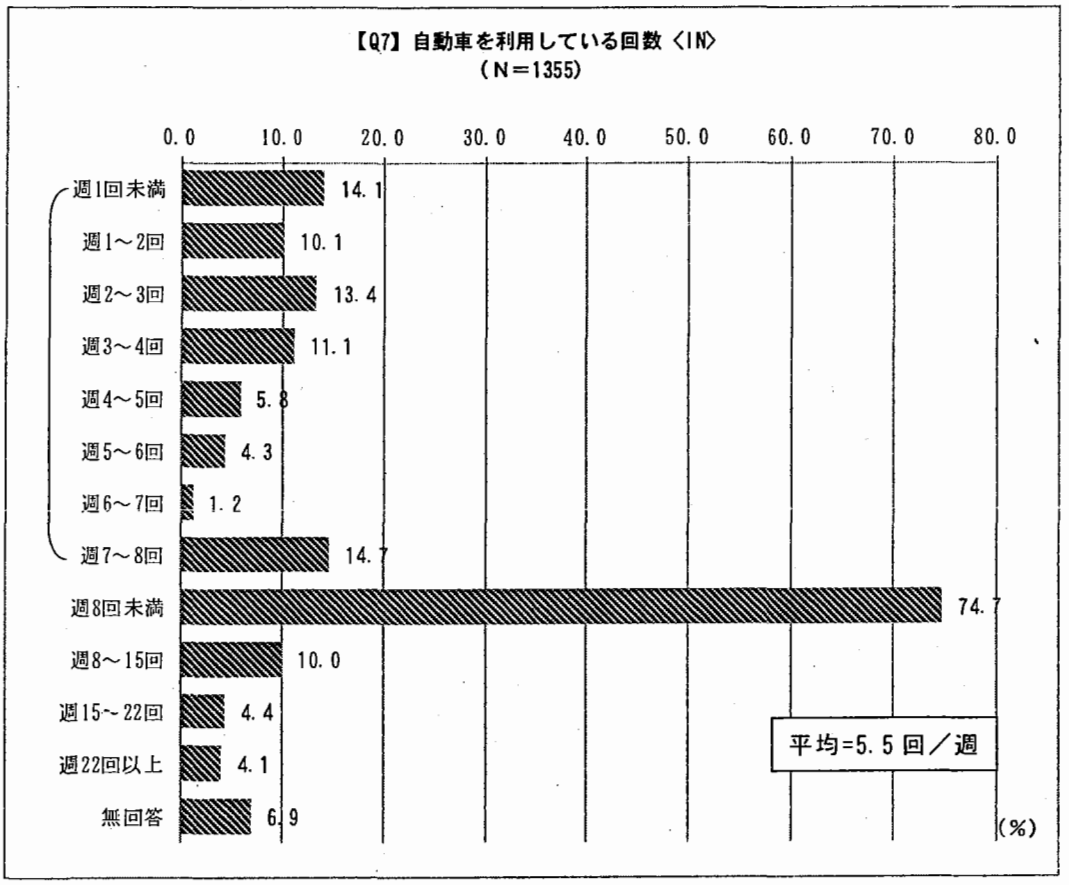
高齢者自身が使える自動車を保有している人が全体の 32.2%、持っていない人が 32.1%と、回答はほぼ 3 等分である。



## 1－5．自動車の利用状況

自動車保有世帯での自動車の利用回数は、週 8 回未満を合わせて 74.7%であり、その中では週 1 回未満が 14.1%、週 2～3 回が 13.4%、週 7～8 回が 14.7%と比較的多い。

平均利用回数は週 5.5 回である。



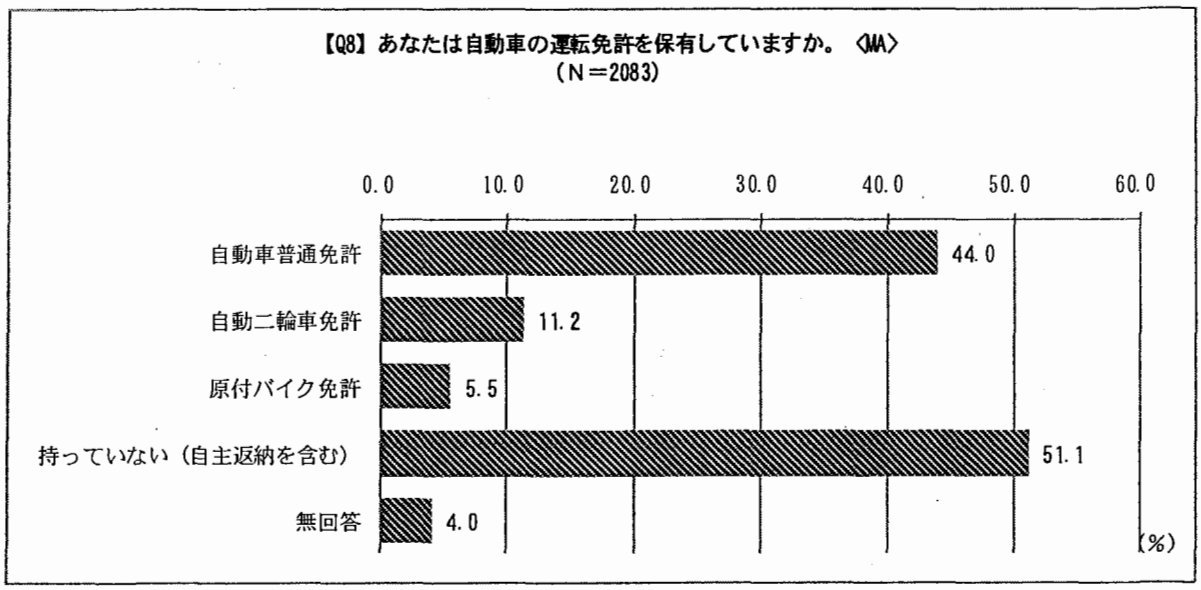

（平均利用回数）

| 対象者数 | 総外出回数 | 平均利用回数 |
|---|---|---|
| 1,224 人 | 6,733 回／週 | 5.5 回／週 |

（注）問 7 の回答結果を 1 週間での利用回数に換算して算出した。また、平均値の算出は統計的検定により外れ値（週 30 回以上の N=37 ｻﾝﾌﾟﾙ）を除いて算出した。

## １－６．自動車の運転免許の有無

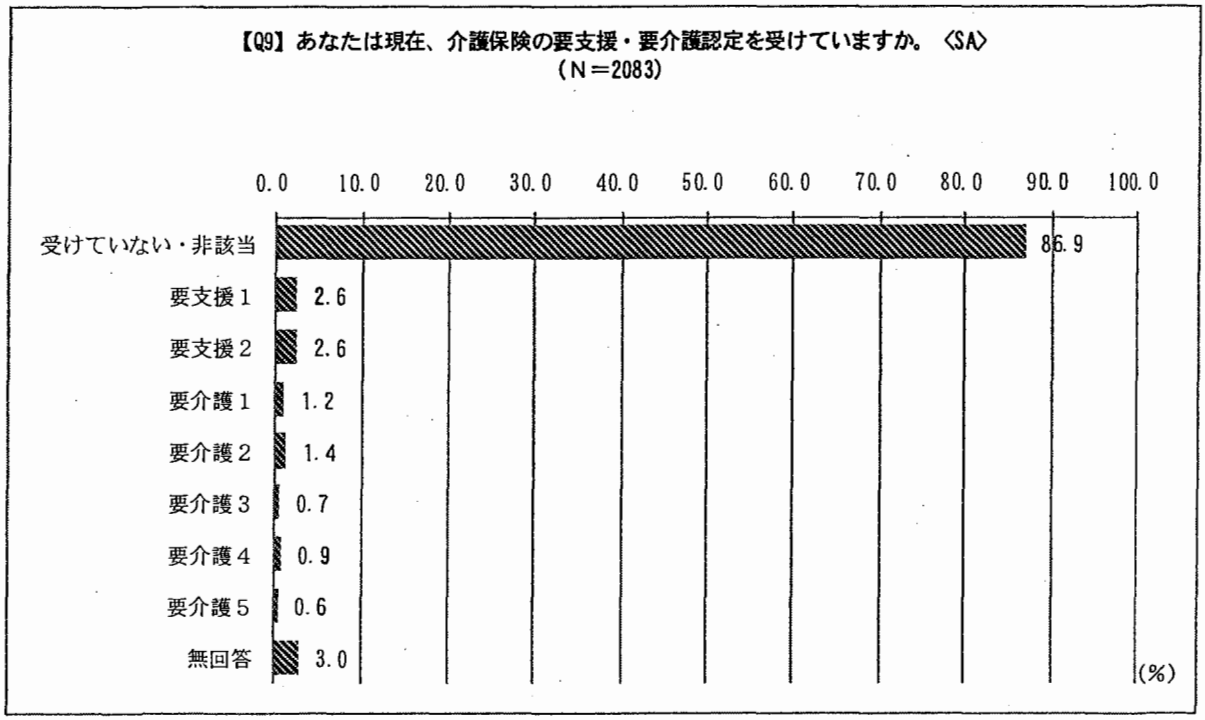
自動車・自動二輪車・原付バイクの免許保有は全体の 60.7%であり、「持っていない(自主返納を含む)」は全体の 51.1%である。




## １－７．介護保険の要支援・要介護認定状況

認定を受けていない・非該当の人が 86.9%を占めている。

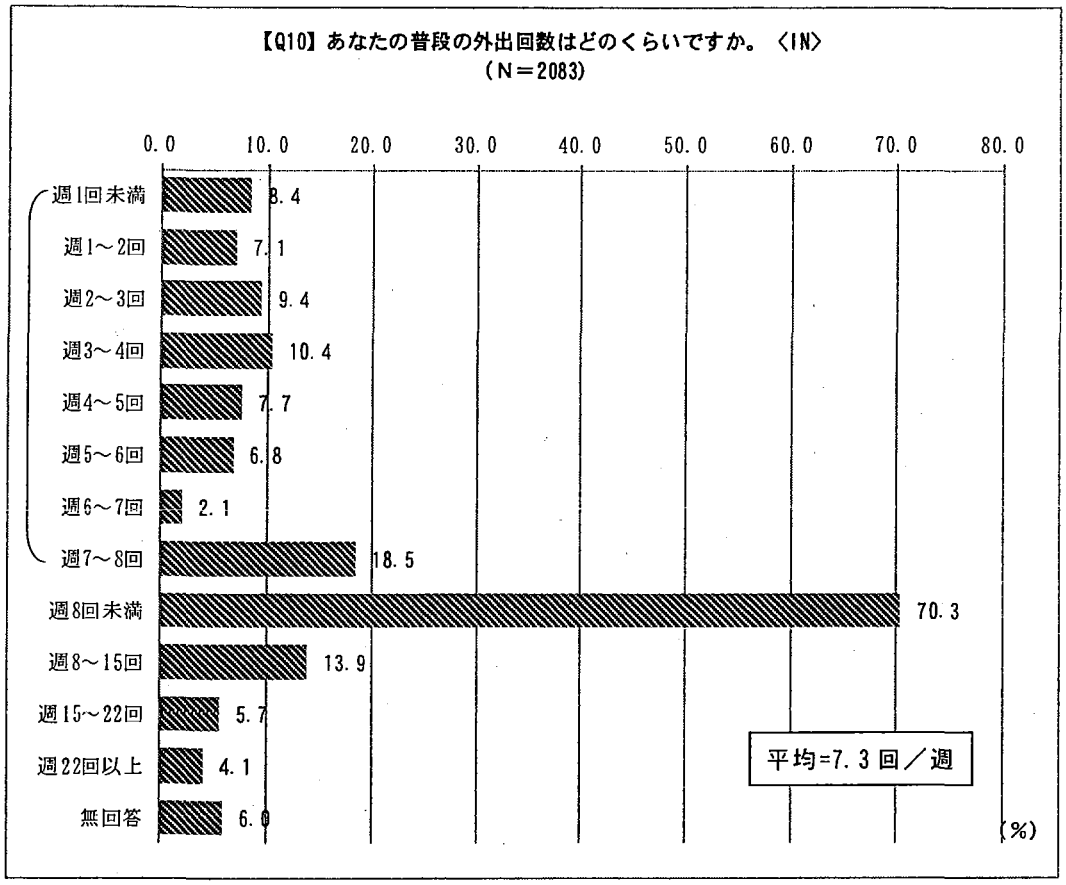
要支援認定を受けている人が 5.2%、要介護認定を受けている人が 4.8%である。



## 1－8．普段の外出回数

普段の外出回数は週 8 回未満が合わせて 70.3%を占めており、その中では週 7～8 回（ほぼ毎日外出する）が 18.5%と最も多く、その他は 2.1%～10.4%となっている。

平均外出回数は週 7.3 回である。



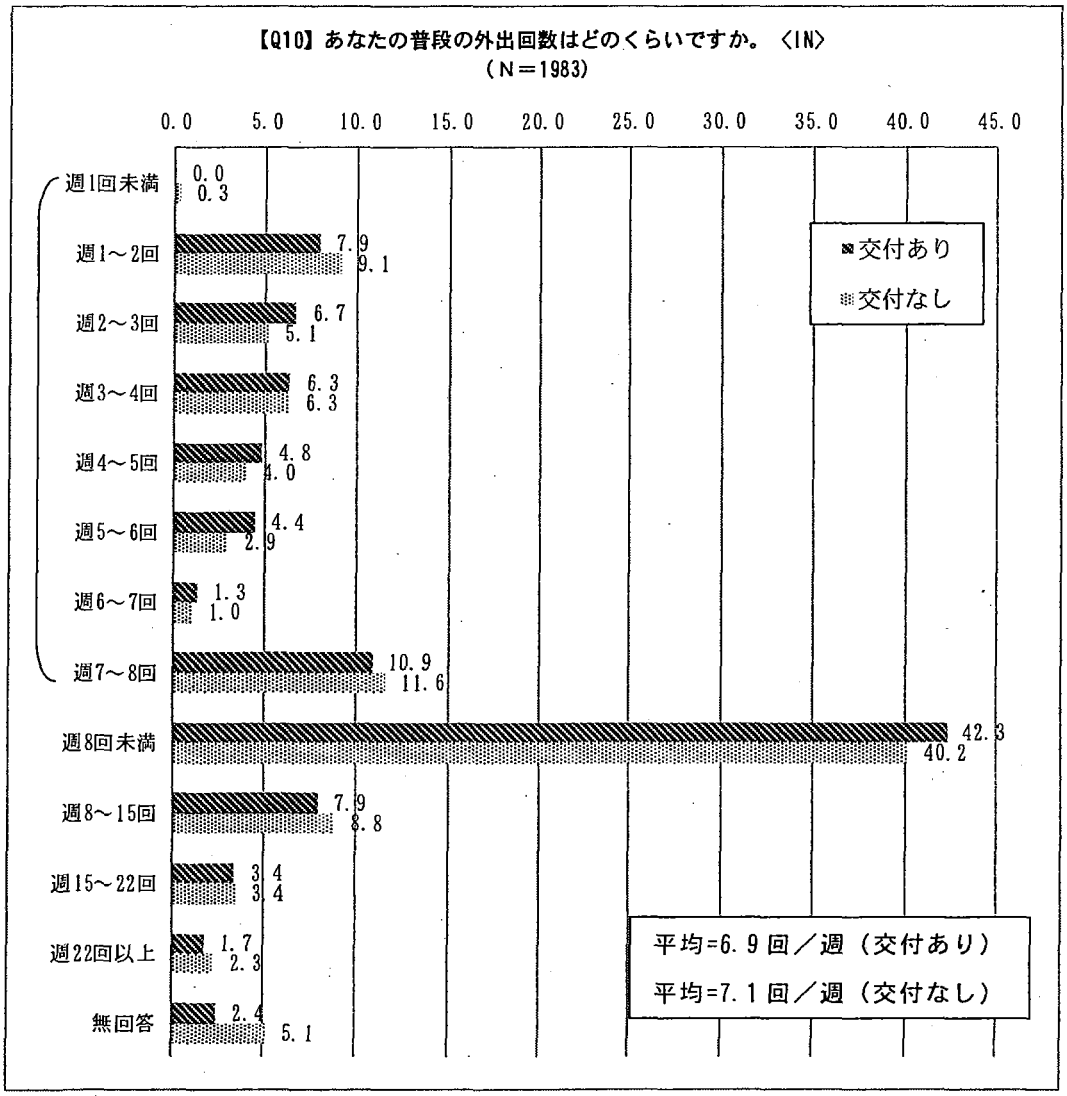

（平均外出回数）

| 対象者数 | 総外出回数 | 平均外出回数 |
|---|---|---|
| 1,937 人 | 14,139 回／週 | 7.3 回／週 |

（注）問 10 の回答結果を 1 週間での外出回数に換算して算出した。また、平均値の算出は統計的検定により外れ値（週 42 回以上の N=22）を除いて算出した。

敬老パスの交付有無別の普段の外出回数をみると、交付ありの人は交付なしの人に比べ、週 2～6 回での外出割合が高くなっている。

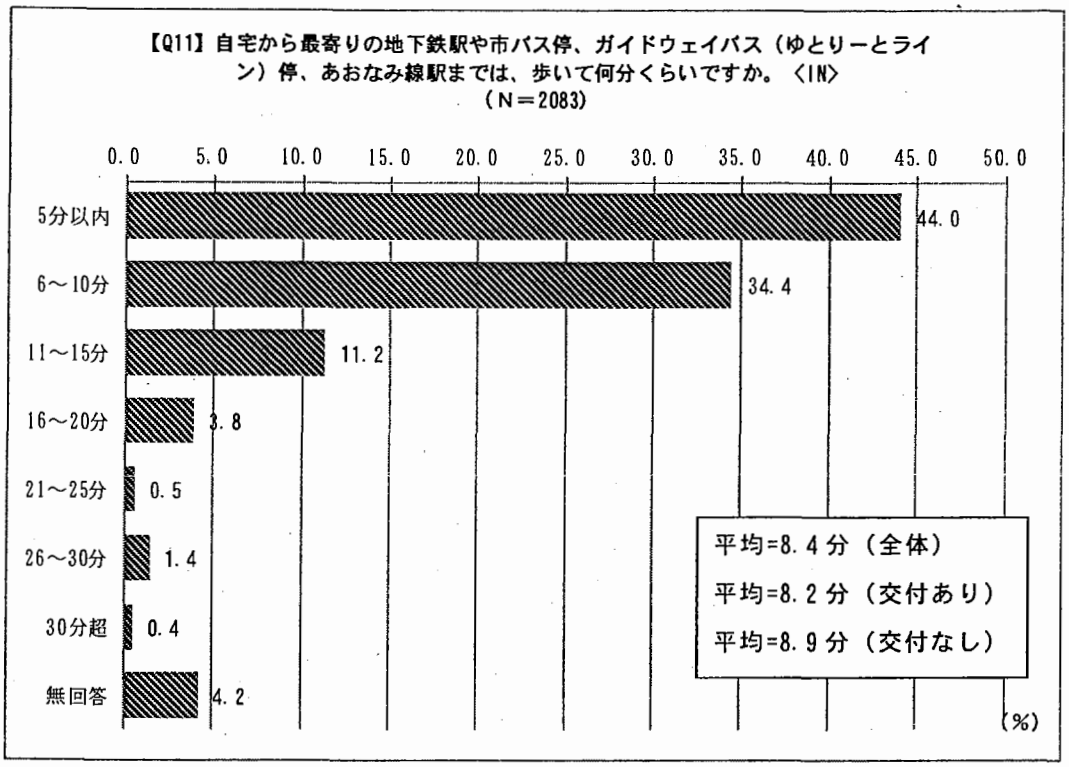
平均外出回数は交付ありが週 6.9 回、交付なしが週 7.1 回である。



## １－９.自宅から最寄りの地下鉄駅や市バス停等までの平均所要時間

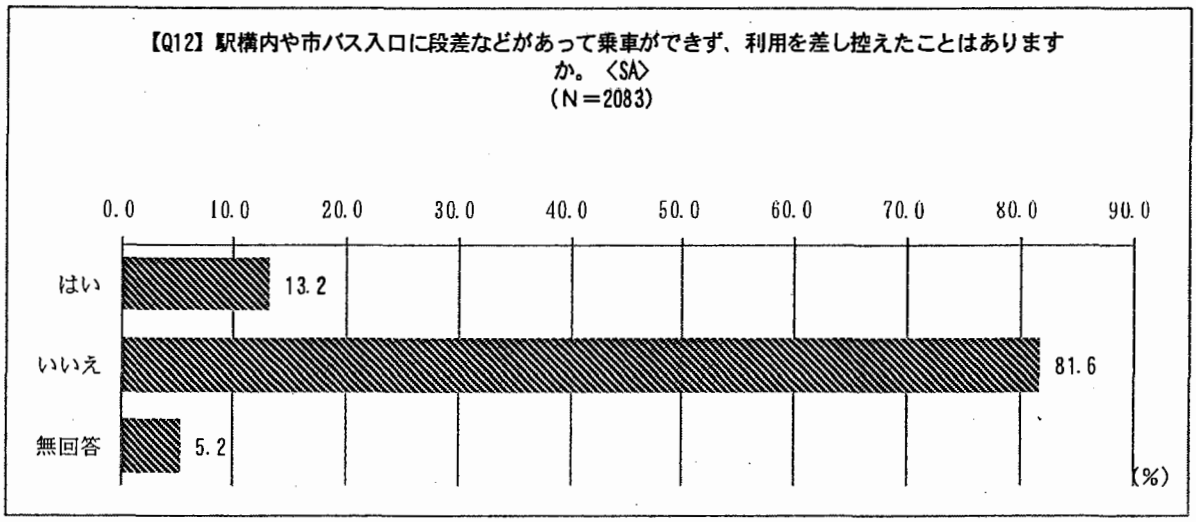
自宅から最寄りの地下鉄駅や市バス停、ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）停、あおなみ線駅までの徒歩所要分は、5分以内が44.0%と最も多く、6～10分以内が34.4%である。両者を合わせると約8割が10分以内である。

平均所要時間は8.4分である。



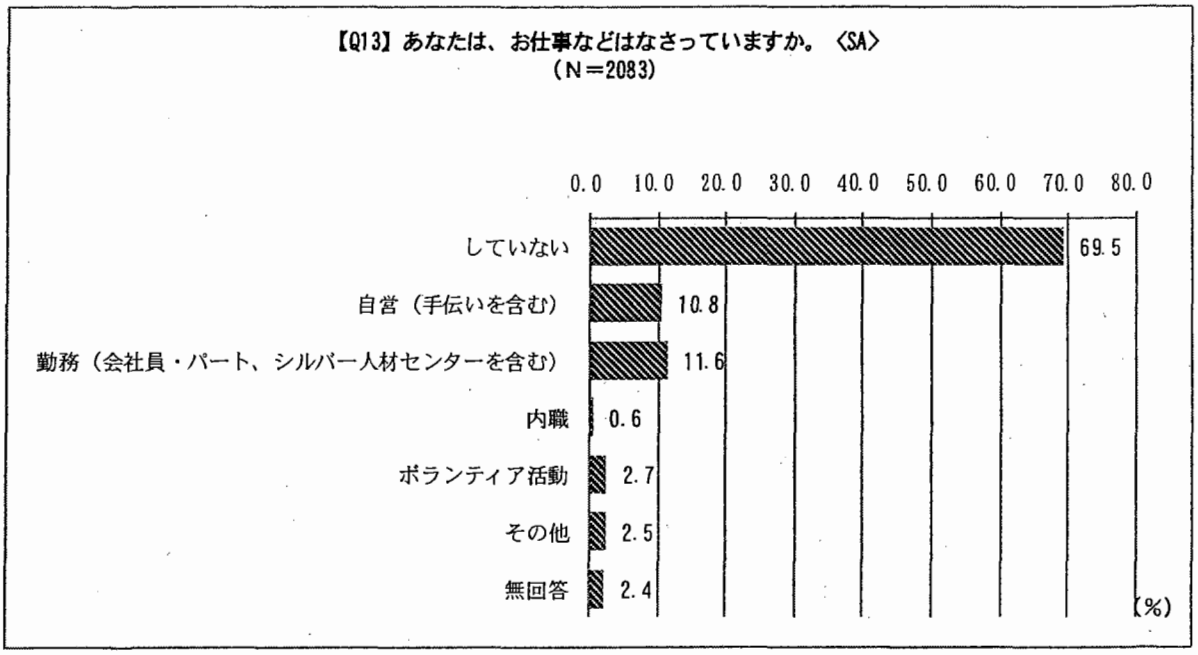

## １－１０.段差などによって利用を差し控えたこと

段差等があることで地下鉄・市バス・ガイドウェイバス・あおなみ線の利用を控えたことがある人は全体の13.2%である。



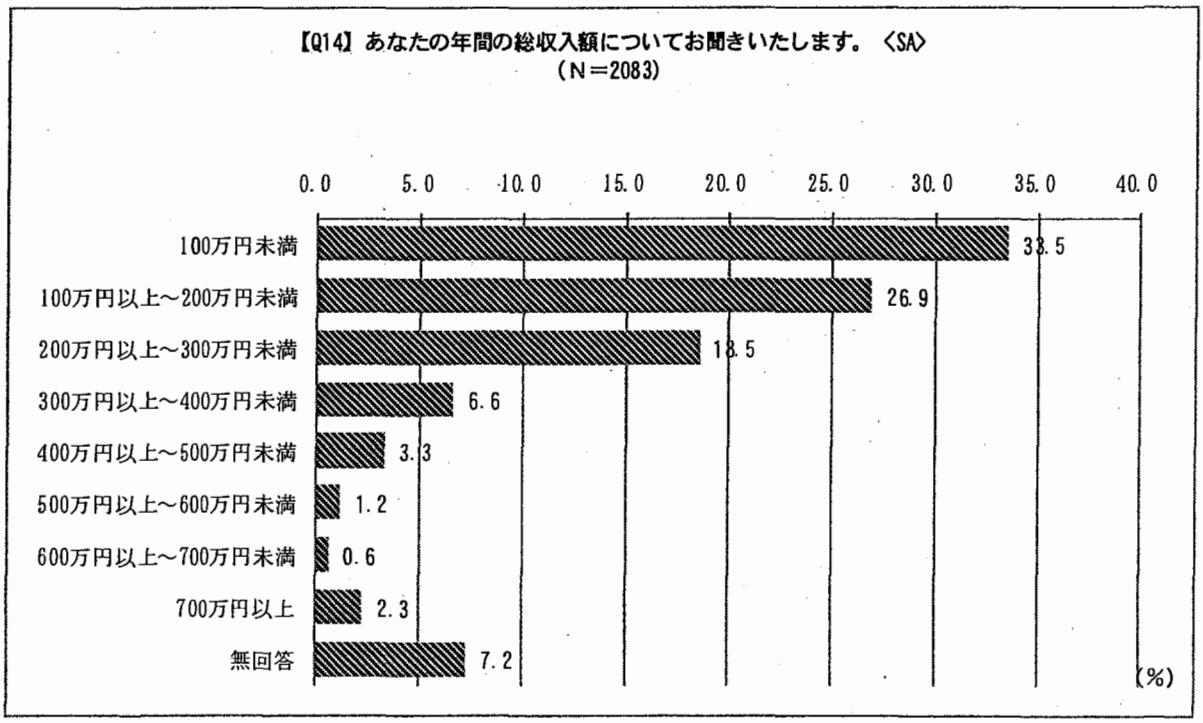
## １－１１．仕事の有無

全体の 69.5%は「無職」であり、仕事をしている人は 23.4%である。



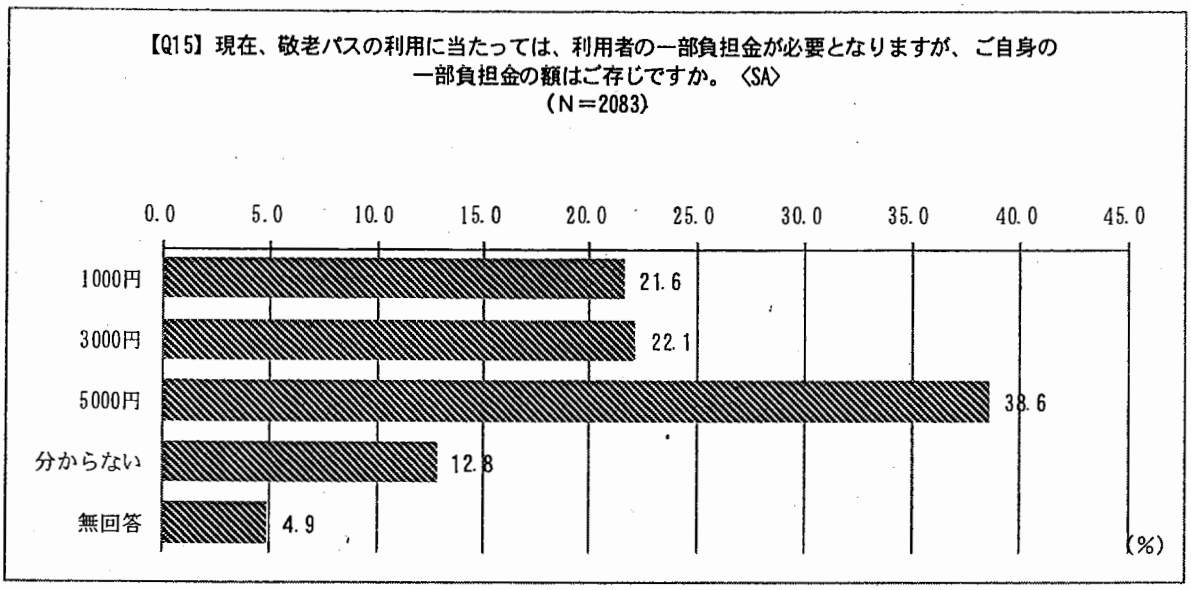

## １－１２．年間の総収入額（給与所得、年金等を含む）

300 万円未満が全体の 78.9%（最も多いのは 100 万円未満の 33.5%）であり、500 万円以上は 4.1%である。

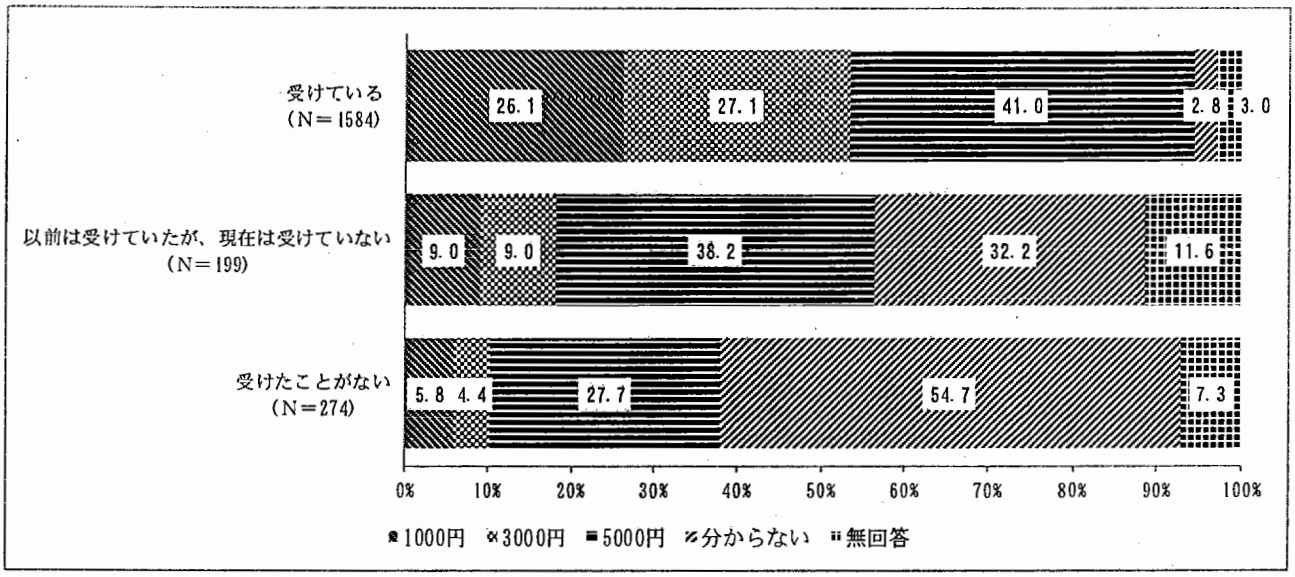


## １－１３．敬老パスの一部負担金の額

自身の一部負担金の額を知らない人は全体の 12.8％（無回答を含めると 17.7％）である。



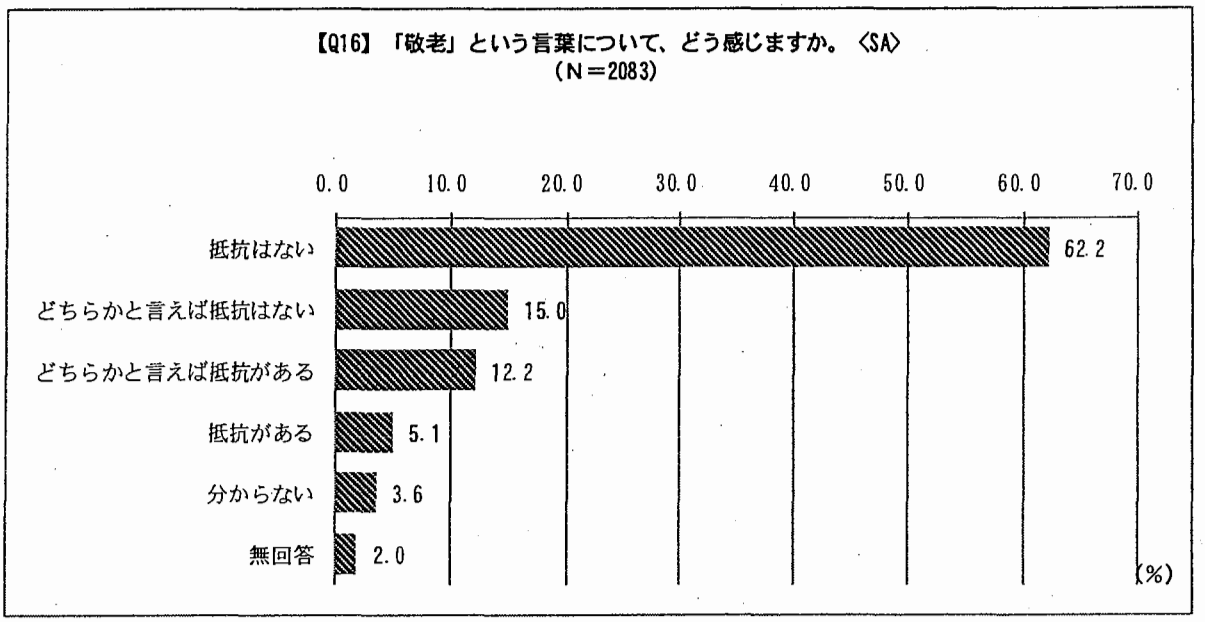

敬老パスの交付有無別にみると、敬老パスを受けている人は大多数の人が一部負担金の額を知っているが、敬老パスを受けたことのない人は、分からないが 54.7％と過半数を占める。



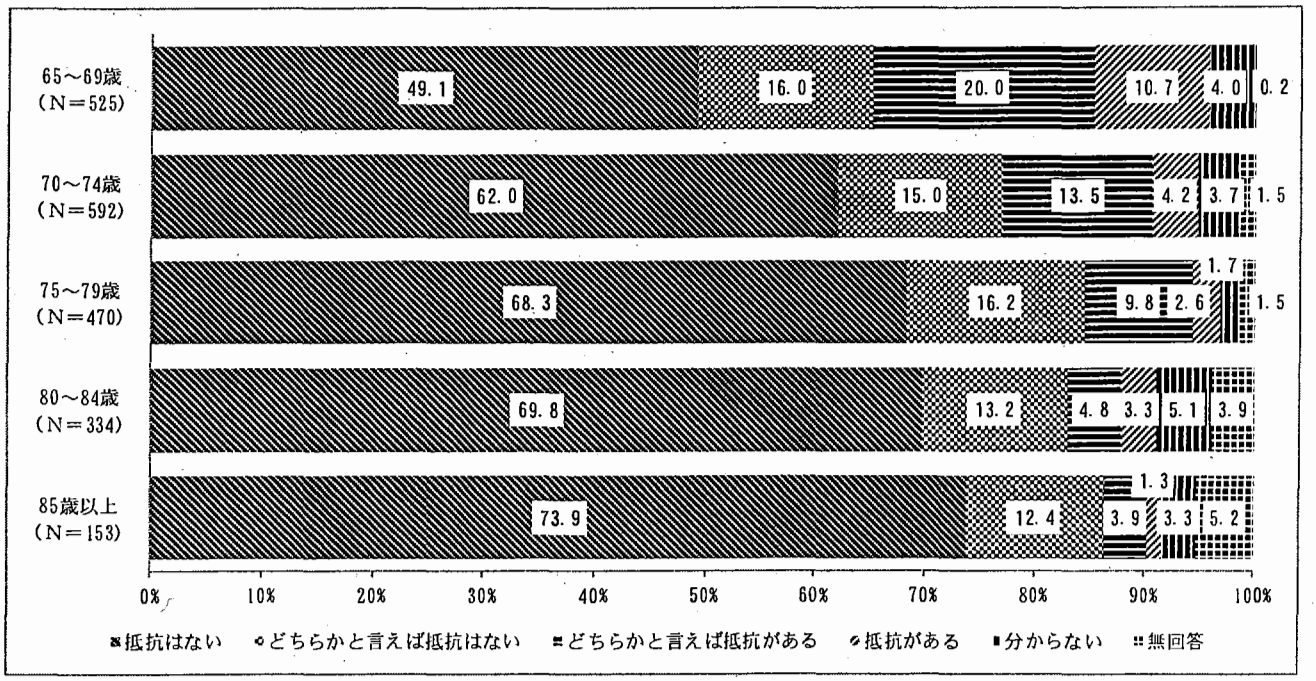
## １－１４．「敬老」という言葉について

「抵抗はない」「どちらかと言えば抵抗はない」を合わせて 77.2%である。

「抵抗がある」「どちらかと言えば抵抗がある」を合わせて 17.3%である。

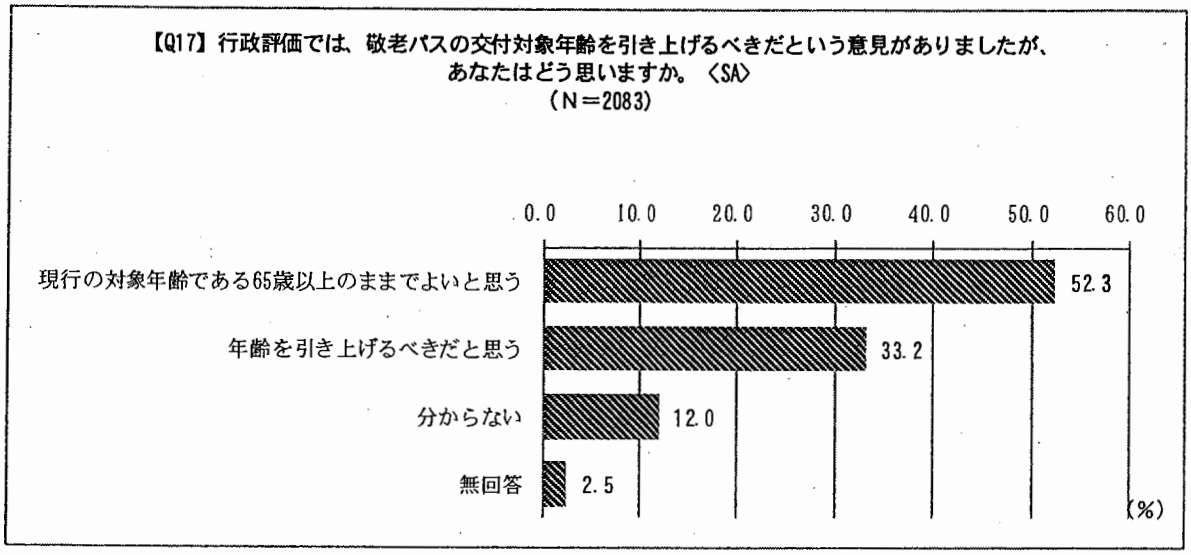



年代別にみると、年代が高まるほど抵抗はない人の割合が大きくなる。65～69 歳では抵抗はない（抵抗はない、どちらかと言えば抵抗はない）人は合わせて 65.1%である。

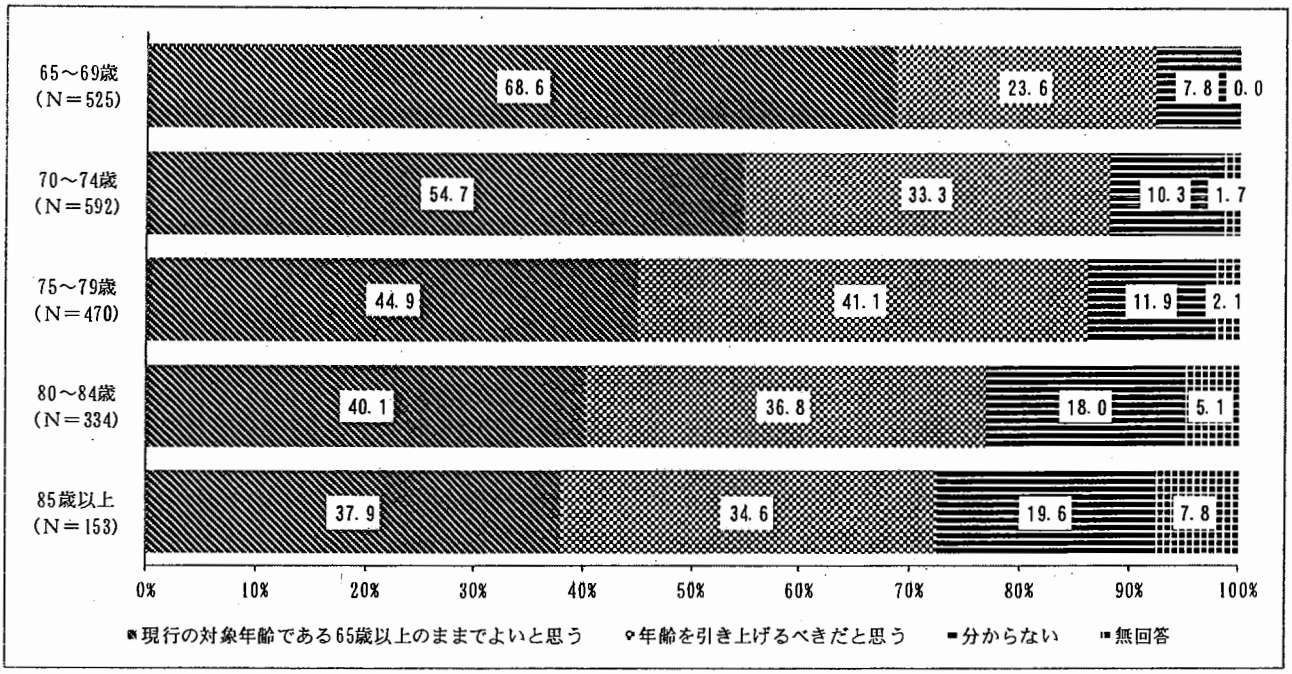


## １－１５．敬老パスの対象年齢について

敬老パスの対象年齢を引き上げるべきと思う人は 33.2%であり、52.3%は現状のままでよいと回答している。

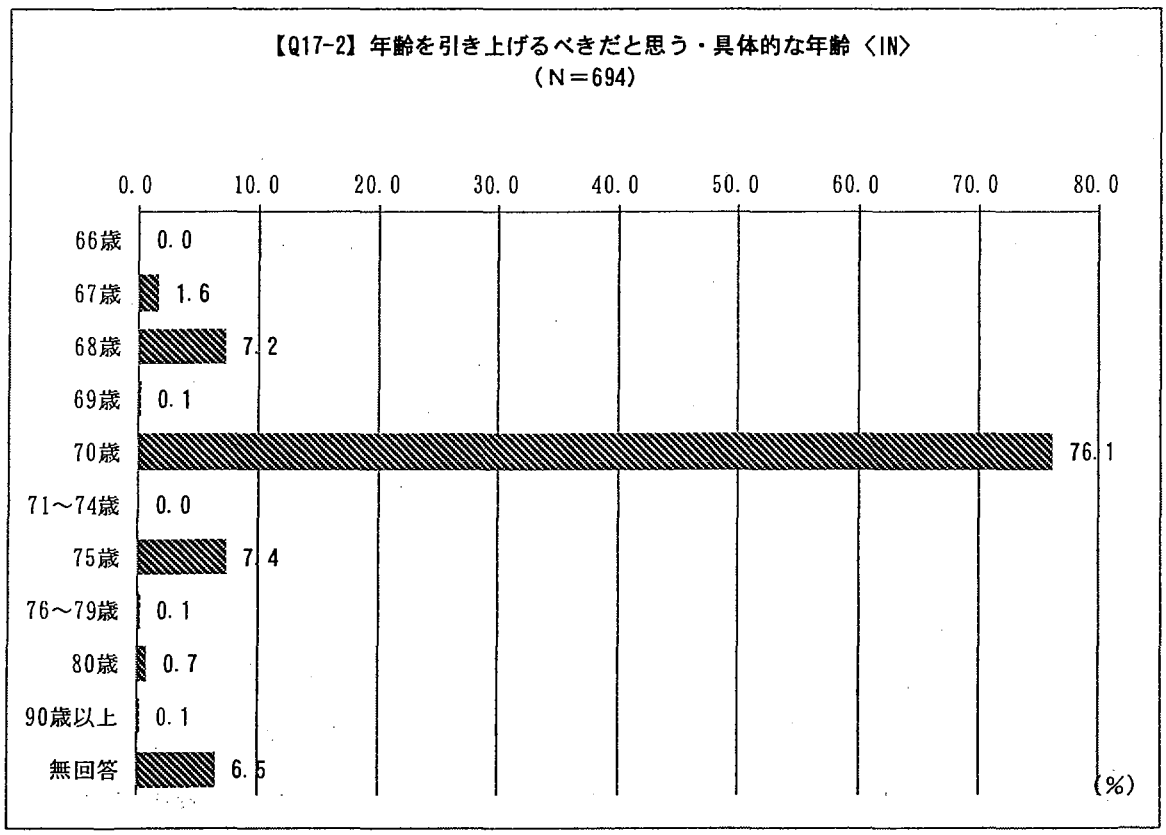



年代別にみると、年代が高くなるほど現行のままでよいと思う人の割合が小さくなり、分からない人の割合が大きくなる。



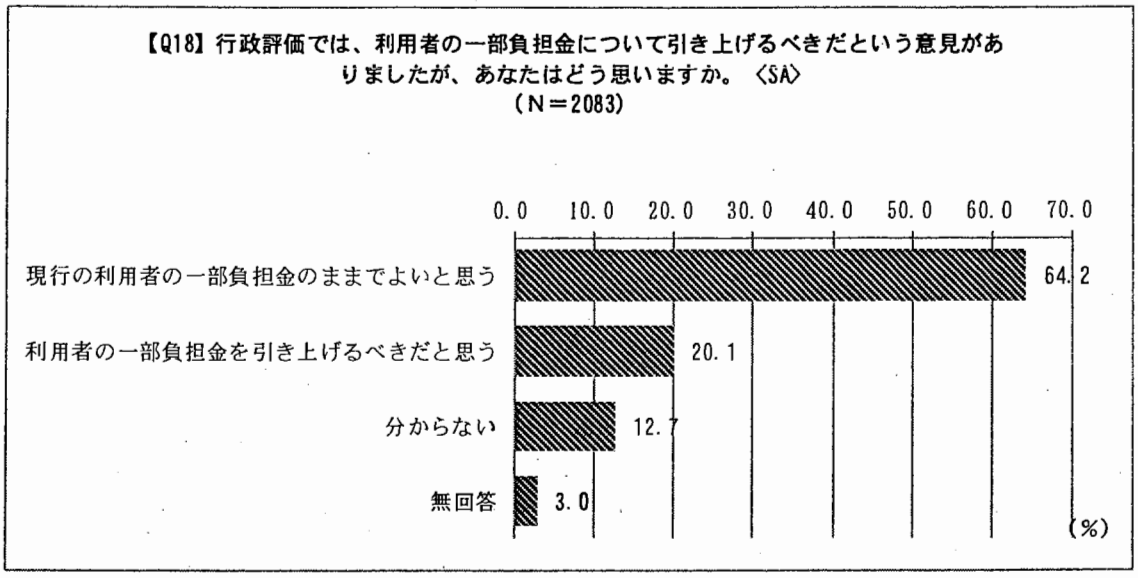
**具体的な引き上げ年齢**

敬老パスの対象年齢を引き上げるべきという回答を選んだ人に対して、その年齢について聞いたところ 70 歳という回答が全体の 76.1%を占めている。

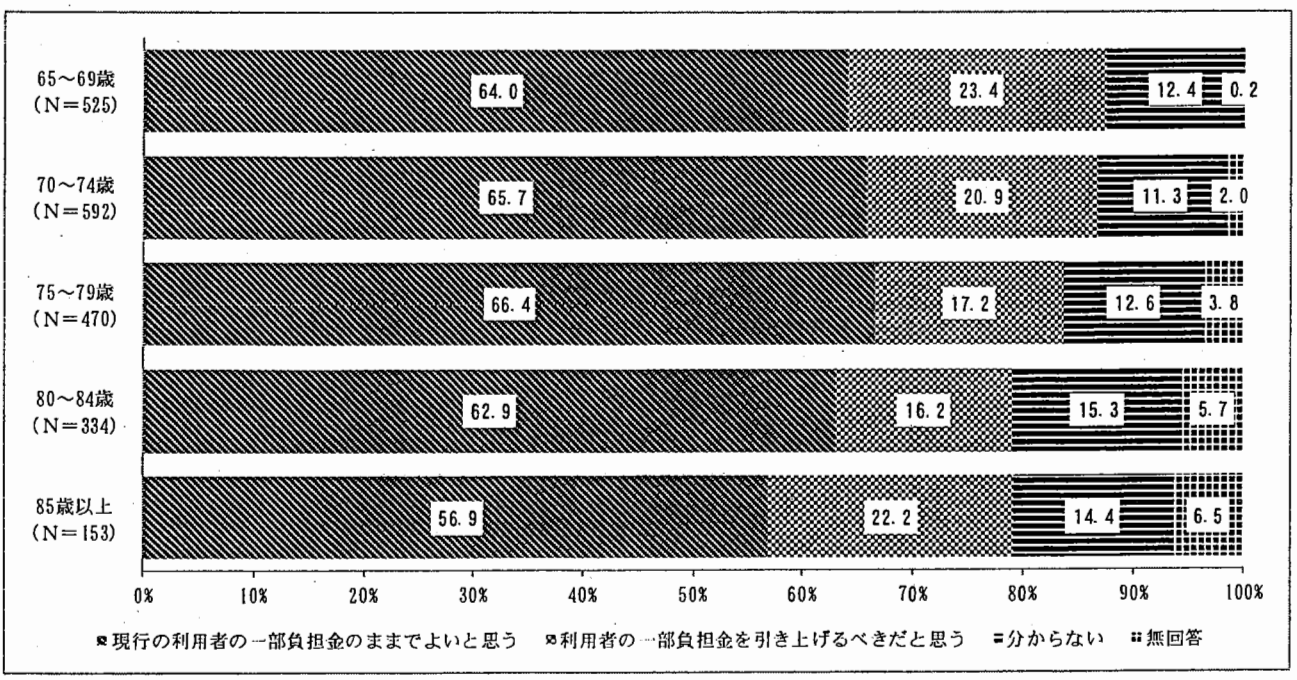


## １－１６．利用者の一部負担金について

現行のままでよいと思う人が 64.2%、引き上げるべきだと思う人が 20.1%である。

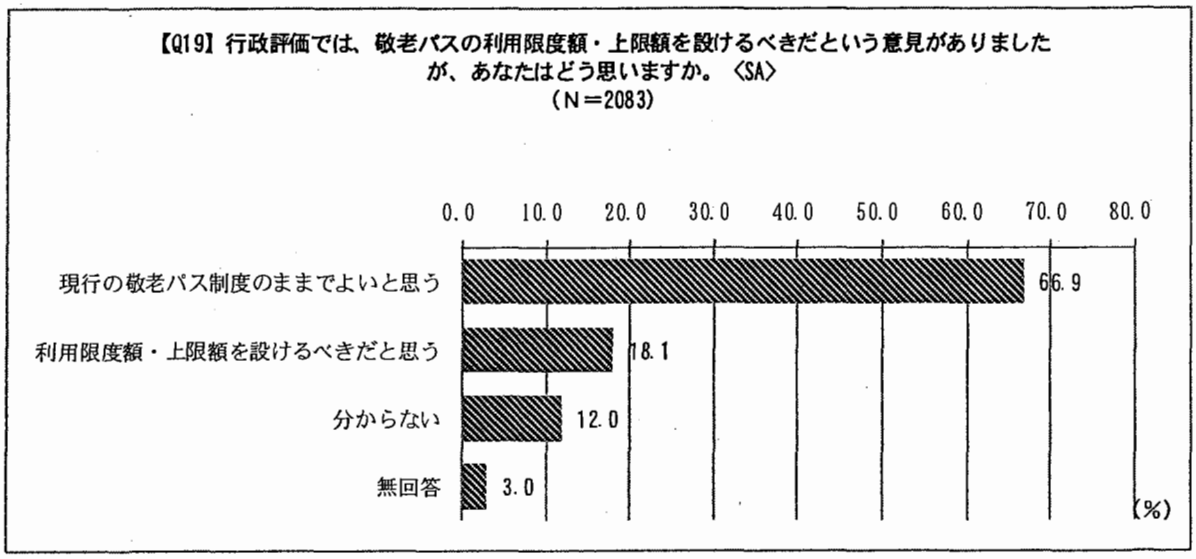



年代別にみると、65～69 歳、70～74 歳、75～79 歳、80～84 歳では、現行のままでよいと思う人の割合が 63～66%であり大きな変化はみられない。

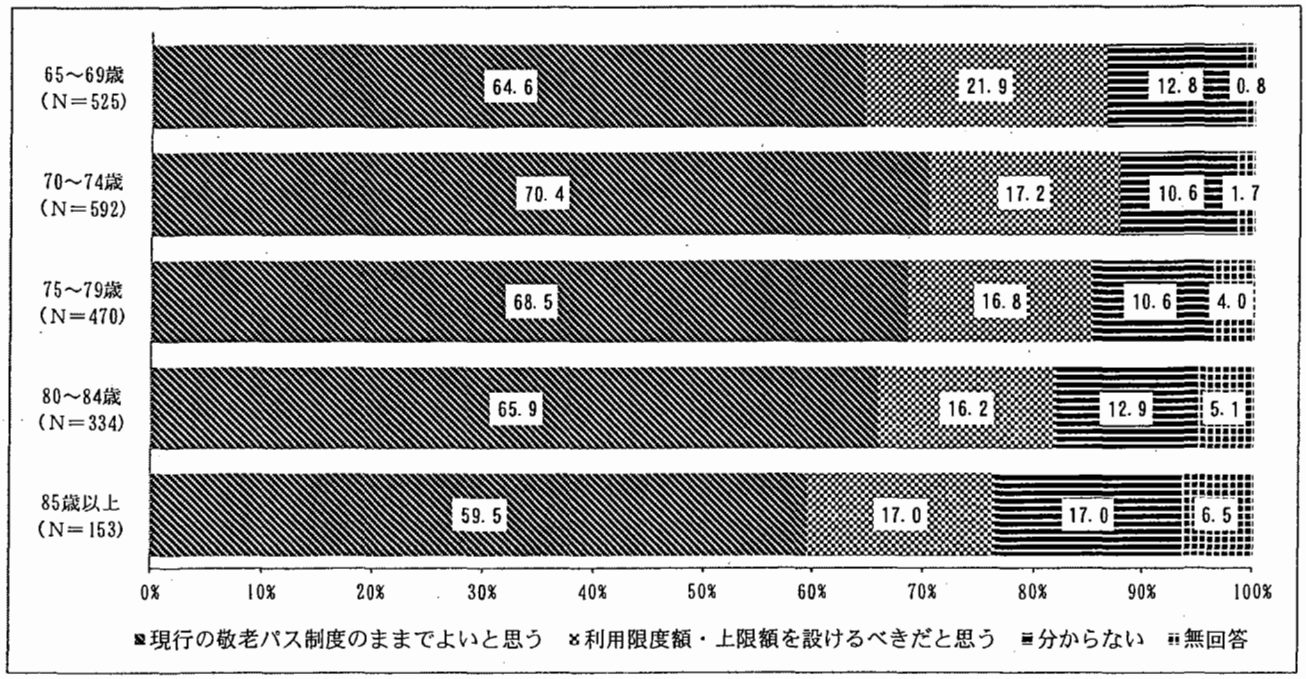


## １－１７.敬老パスの利用限度額・上限額を設けることについて

利用限度額・上限額を設けるべきだと思う人は 18.1%であり、現状のままでよいと思う人は 66.9%である。

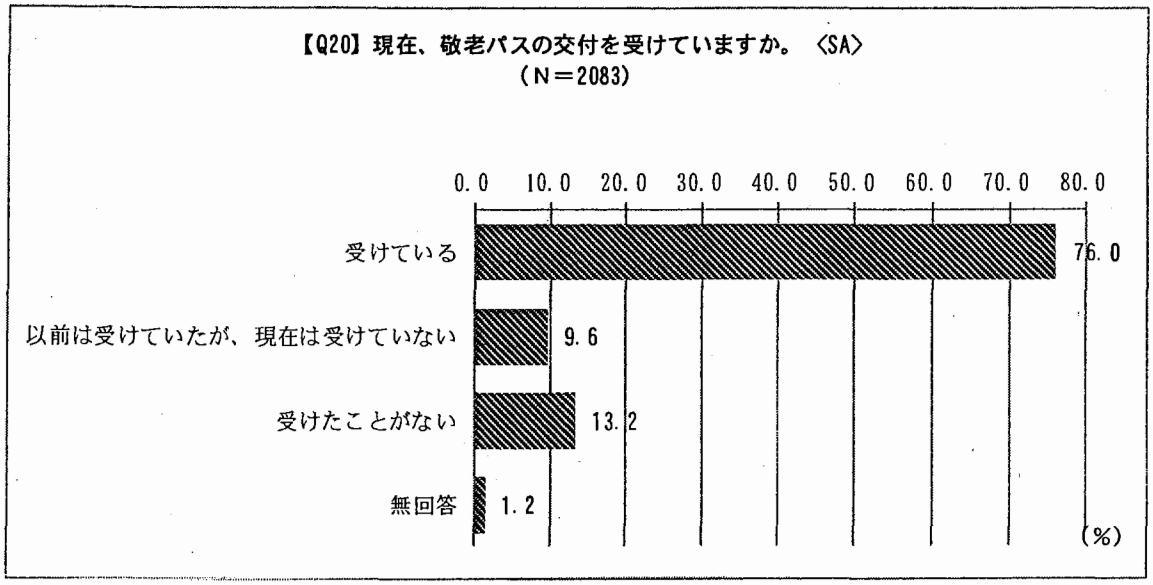



年代別にみると、65～69 歳、70～74 歳、75～79 歳、80～84 歳では、現行のままでよいと思う人の割合が 65～70%であり、70～74 歳で現行のままでよいと思う人の割合が最大となっている。



## １－１８．敬老パスの交付の有無

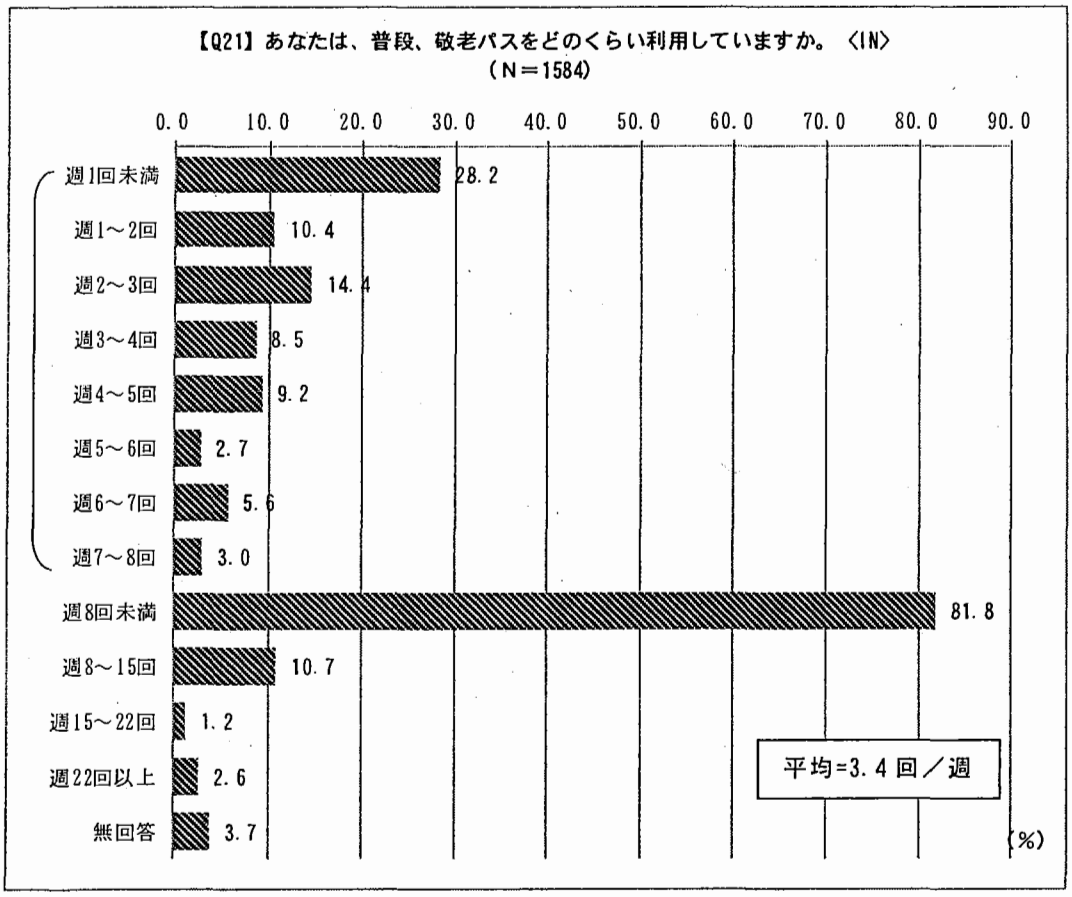
パスの交付を受けている人の割合が 76.0%であり、受けていない・受けたことがない人の割合は合わせて 22.8%である。




（参考）交付率実績 64.0%（24 年 3 月末）

## １－１９．敬老パスの利用回数

敬老パスの利用回数は週 8 回未満の割合が合わせて 81.8%を占めている。その中では週 1 回未満の割合が 28.2%と最も多い。その他は週 1～2 回から週 4～5 回の割合が 8.5%～14.4%となっている。平均利用回数は、週 3.4 回である。(片道利用を 1 回とする)

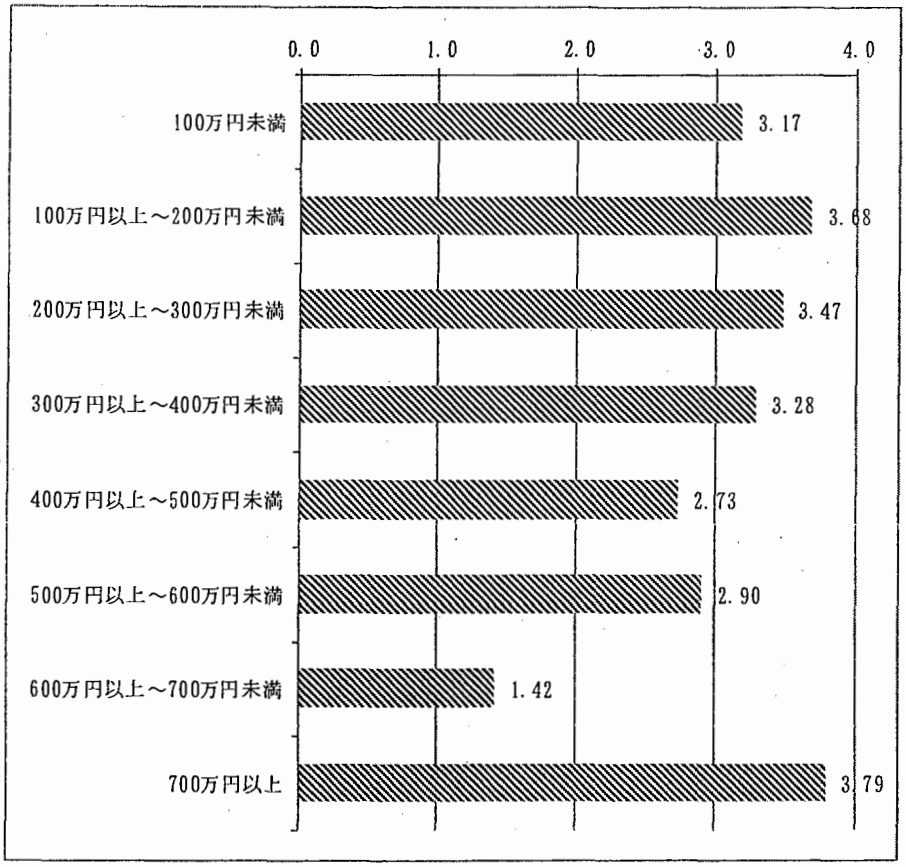



(平均利用回数)

| 対象者数 | 総利用回数 | 平均利用回数 |
|---|---|---|
| 1,472 人 | 5,000 回／週 | 3.40 回／週 |

(注) 問 21 の回答結果を 1 週間での利用回数に換算して算出した。また、平均値の算出は統計的検定により外れ値（週 20 回以上の N=53）を除いて算出した。

年間総収入額と敬老パス利用回数のクロス集計結果は以下のとおりであり、年収によって平均利用回数に若干の差がみられ、年収 500 万円未満では、100 万円以上～200 万円未満が週 3.68 回と最も多い。

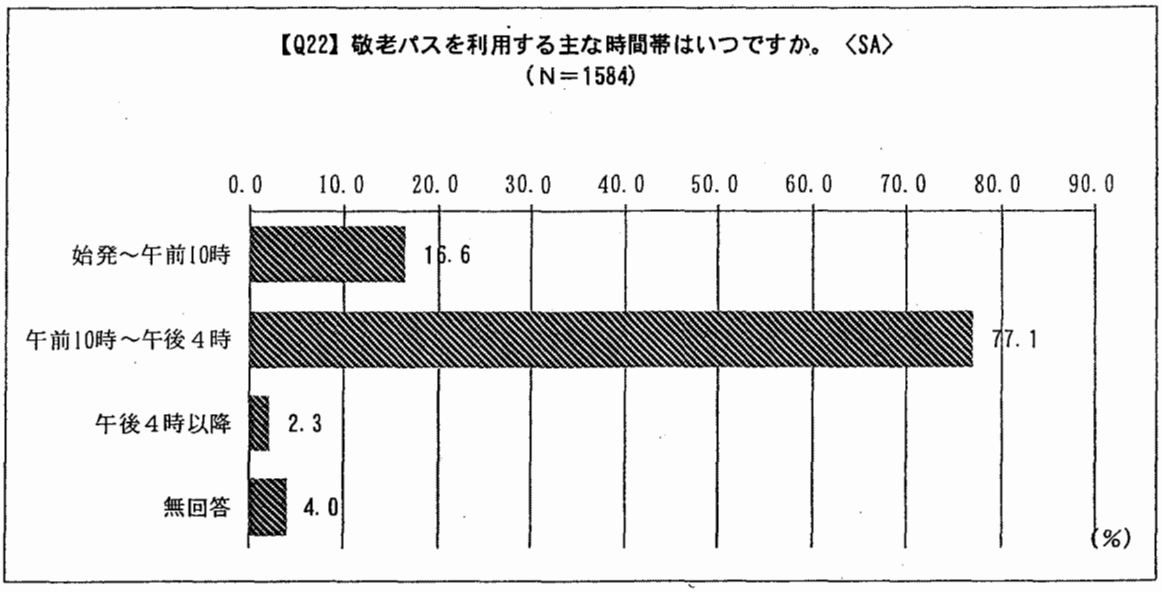



| | 対象者数 | 総利用回数 | 平均利用回数 |
|---|---|---|---|
| 100万円未満 | 524 | 1,662 | 3.17 |
| 100万円以上～200万円未満 | 413 | 1,520 | 3.68 |
| 200万円以上～300万円未満 | 258 | 895 | 3.47 |
| 300万円以上～400万円未満 | 96 | 315 | 3.28 |
| 400万円以上～500万円未満 | 44 | 120 | 2.73 |
| 500万円以上～600万円未満 | 20 | 58 | 2.90 |
| 600万円以上～700万円未満 | 7 | 10 | 1.42 |
| 700万円以上 | 25 | 95 | 3.79 |

（注）年収 400 万円以上は対象者数が少ないため参考値である。

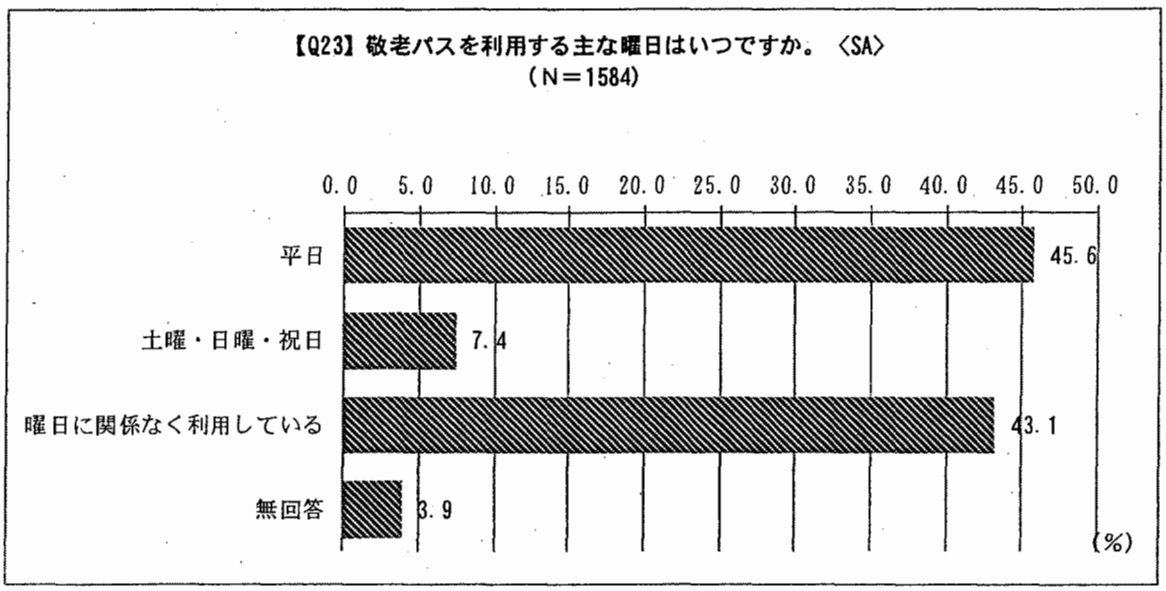
## １－２０.敬老パスを利用する時間帯

昼間時(午前 10 時～午後 4 時)の利用が 77.1%と最も多く、午前 10 時以前は 16.6%である。



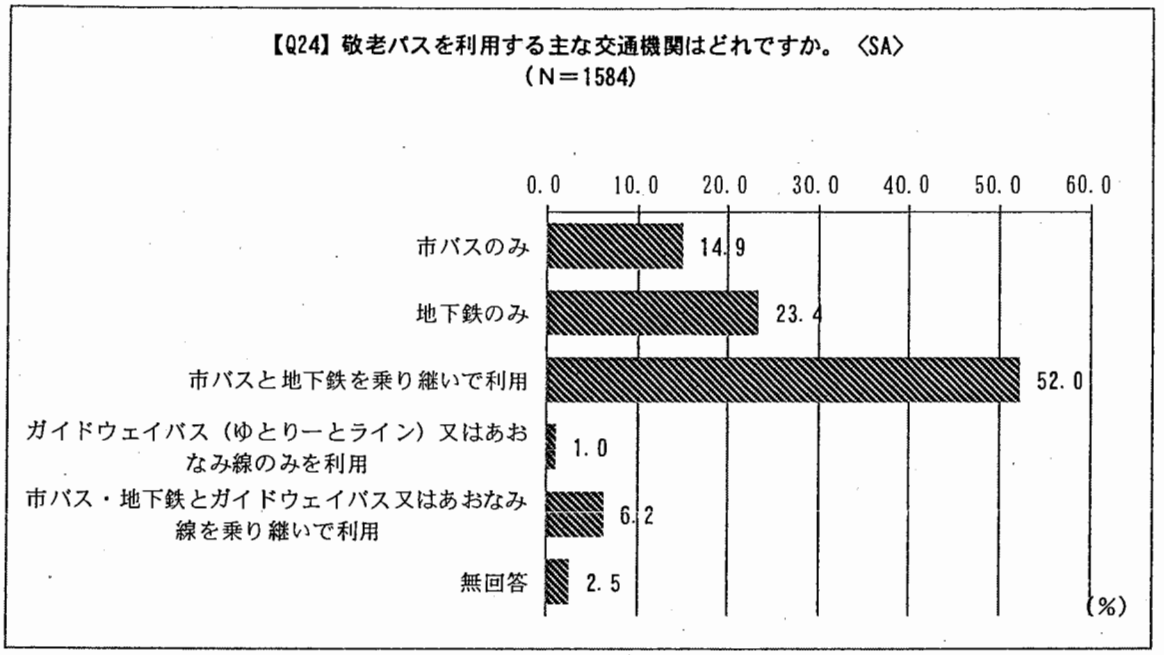

## １－２１.敬老パスを利用する曜日

平日のみが 45.6%、曜日に関係なく利用している人が 43.1%であり、土曜・日曜・祝日のみが 7.4%である。



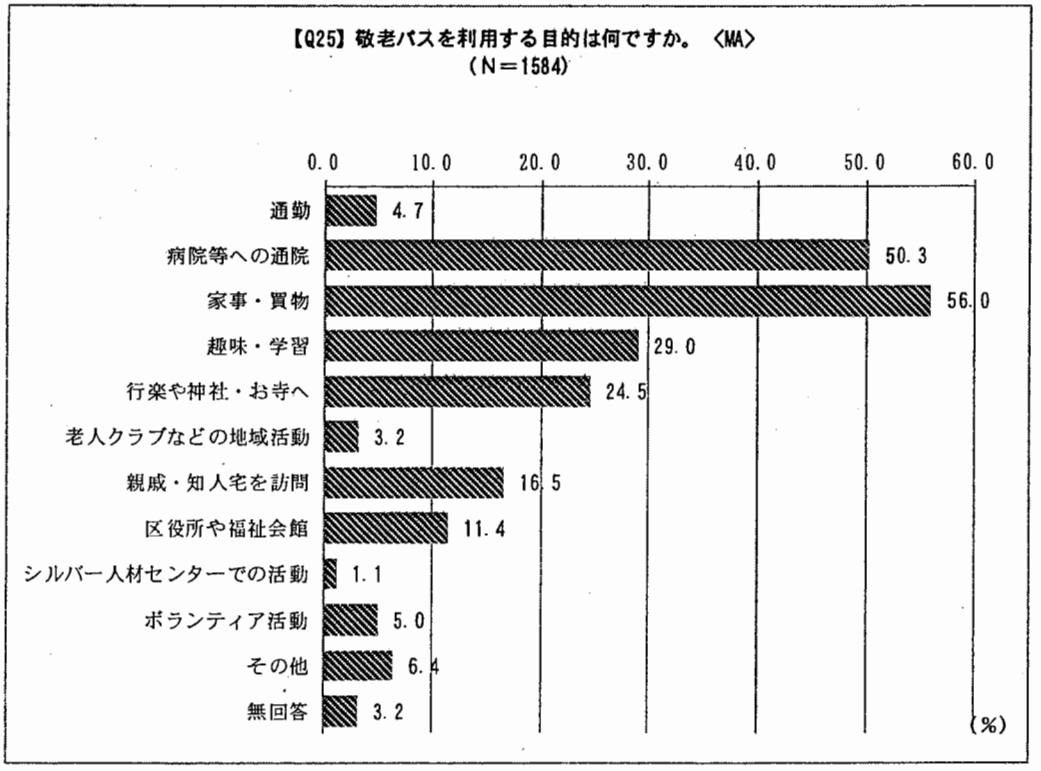
## １－２２.利用している交通機関

敬老パスを利用して、市バスと地下鉄を乗り継いで利用している人は 52.0%であり、地下鉄のみは 23.4%、市バスのみは 14.9%である。また、ガイドウェイバス、あおなみ線の利用は 7.2%である。



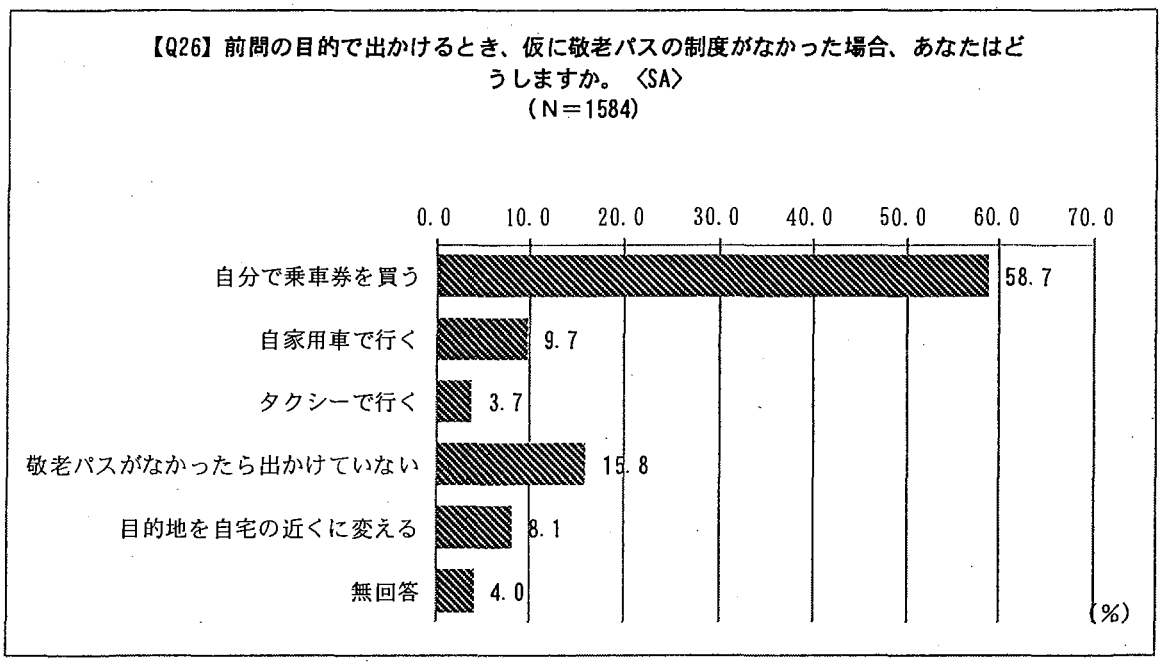

## １－２３.敬老パスの利用目的

家事・買物が 56.0%、病院等への通院 50.3%等の利用の他、趣味・学習 29.0%や行楽や神社・お寺へ 24.5%、親戚・知人宅を訪問 16.5%等があげられる。



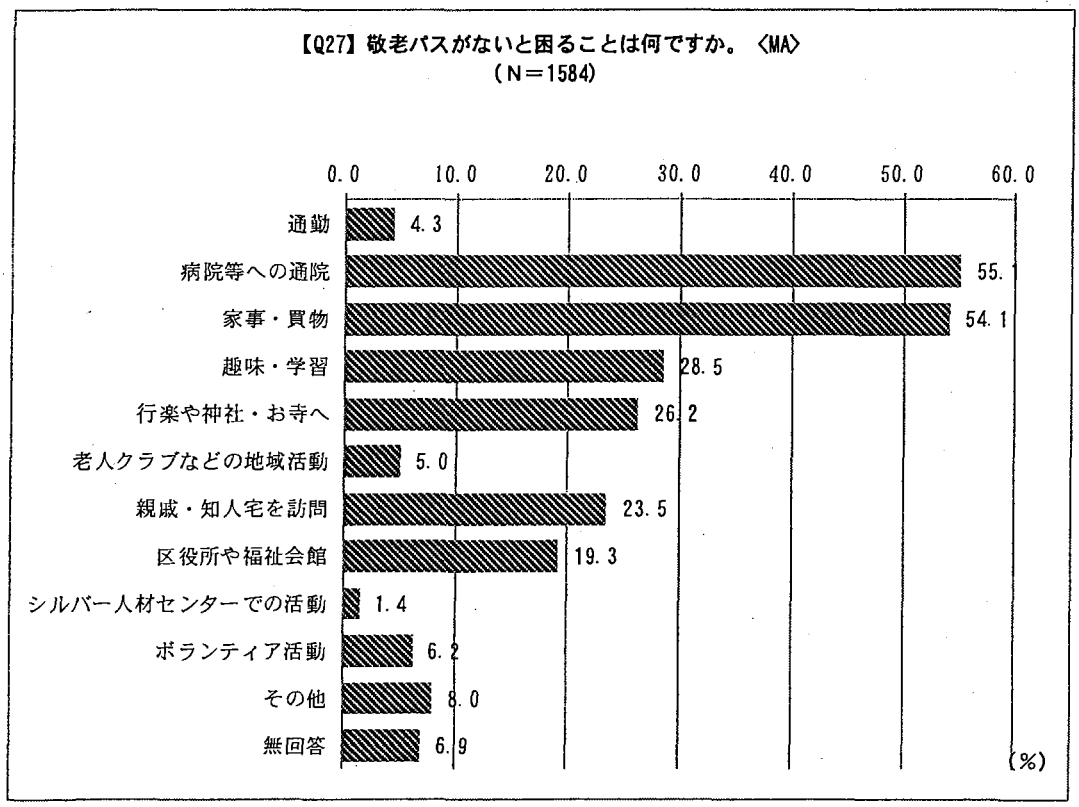
## １－２４.敬老パスがない場合の対応

自分で乗車券を買う人が 58.7%と最も高く、自動車やタクシーで行く人は合わせて 13.4%であり、敬老パスがなかったら出かけていない人は 15.8%である。



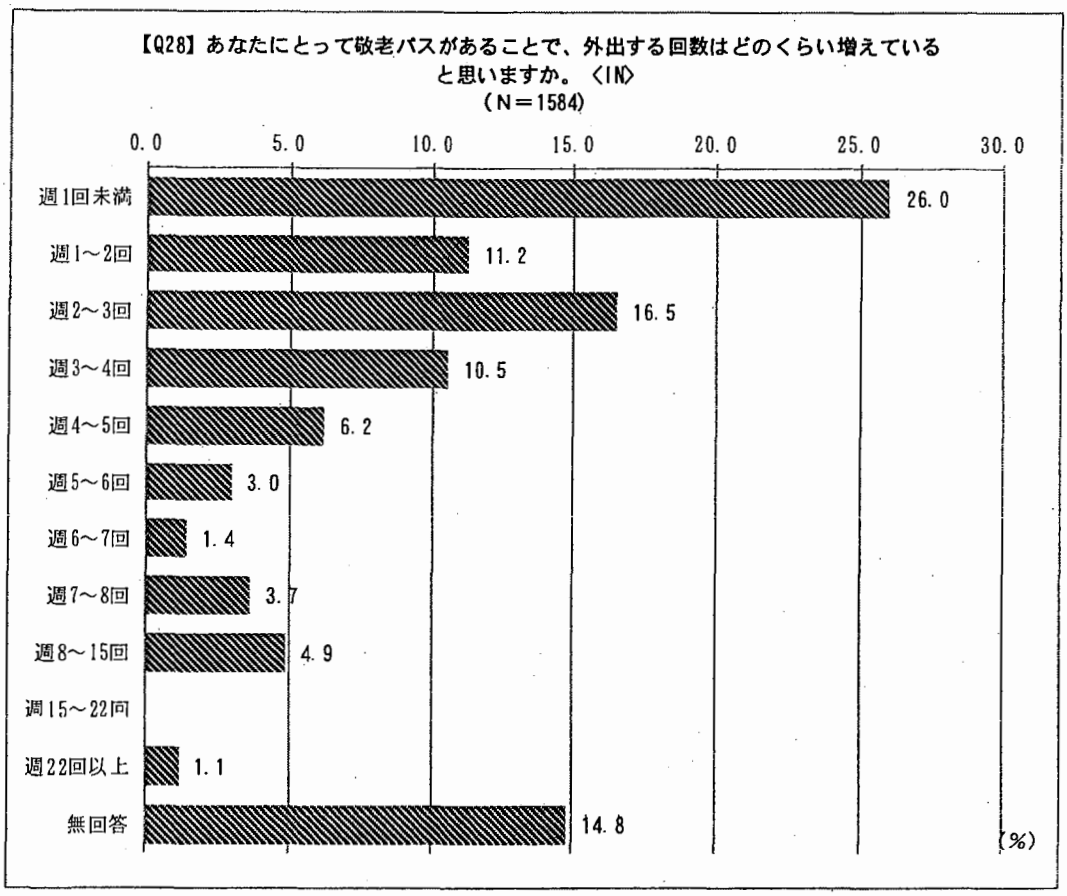

## １－２５.敬老パスがないと困ること

敬老パスの利用目的と同様に、家事・買物が 54.1%、病院等への通院 55.1%等の利用の他、趣味・学習 28.5%や行楽や神社・お寺へ 26.2%、親戚・知人宅を訪問 23.5%等があげられる。



## １－２６．敬老パスがあることで増える外出回数

敬老パスがあることで増える外出回数は週１回未満が 26.0%と最も多く、週 2～3 回が 16.5%と続く。無回答も 14.8%みられる。




「普段の外出回数（問 10）」に対する「敬老パスがあることで増えた外出回数（問 28）」の割合は 27.9%となる。

| 項目 | 総外出回数 |
|---|---|
| ①普段の外出回数（問 10） | 9,784 回／週 |
| ②敬老パスがあることで増えた外出回数（問 28） | 2,734 回／週 |
| 増加率（②／①） | 27.9% |

（注）集計条件は以下のとおり。

・敬老パス交付あり（問 20=1 の N=1584 を母数とした）。

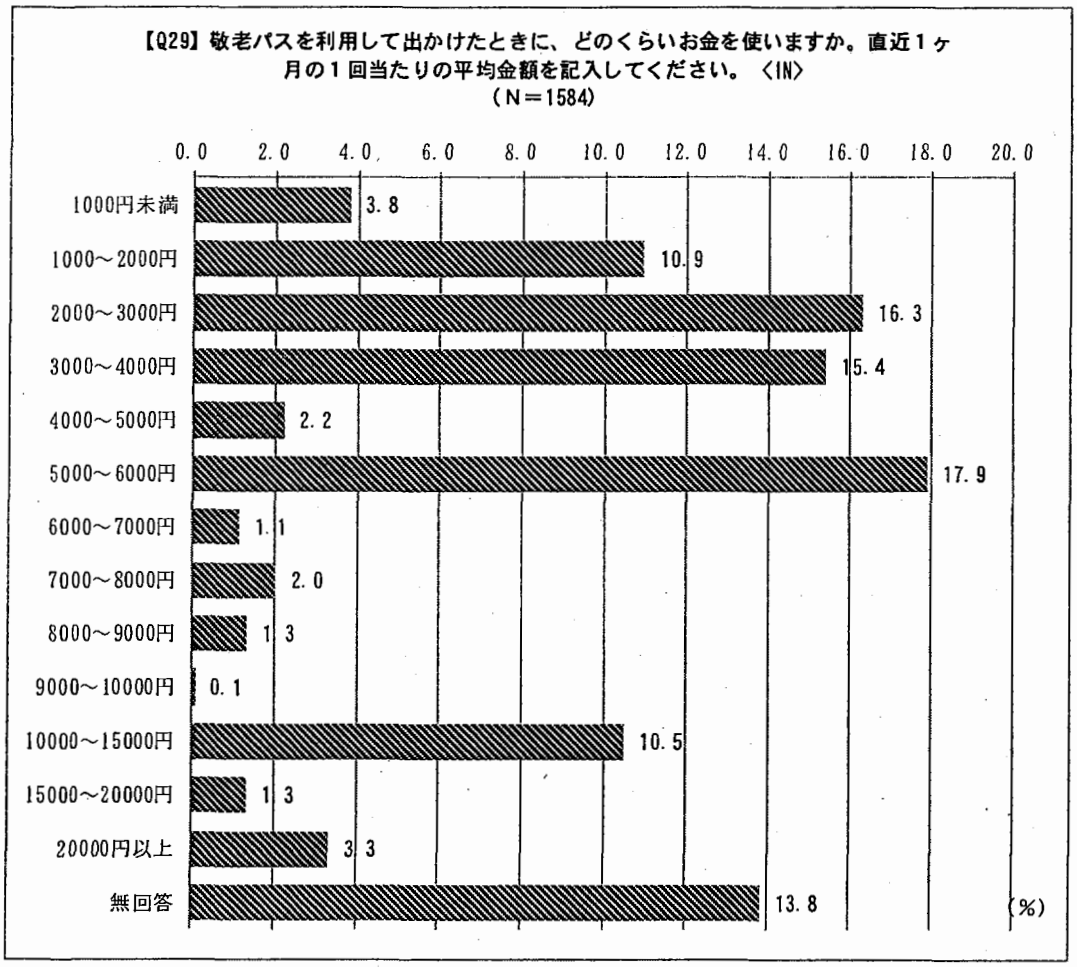
・外れ値の回答者を除く（問 10 は週 42 回以上の N=22、問 28 は週 15 回以上の N=30）。

・回答矛盾（問 28 の増加回数が問 10 の普段の外出回数を超えるもの）を除く。

## １－２７.敬老パスを利用して出かけた時の１回当たりの消費額

外出 1 回当たりの消費額は、5,000～6,000 円が 17.9%と最も多く、2,000～3,000 円が 16.3%、3,000～4,000 円が 15.4%、1,000～2,000 円が 10.9%と続く。10,000～15,000 円も 10.5%みられる。

平均消費額は 4,210 円となる。




（平均消費額）

| 対象者数 | 総消費額 | 平均消費額 |
|---|---|---|
| 1,311 人 | 5,519,270 円 | 4,210 円 |

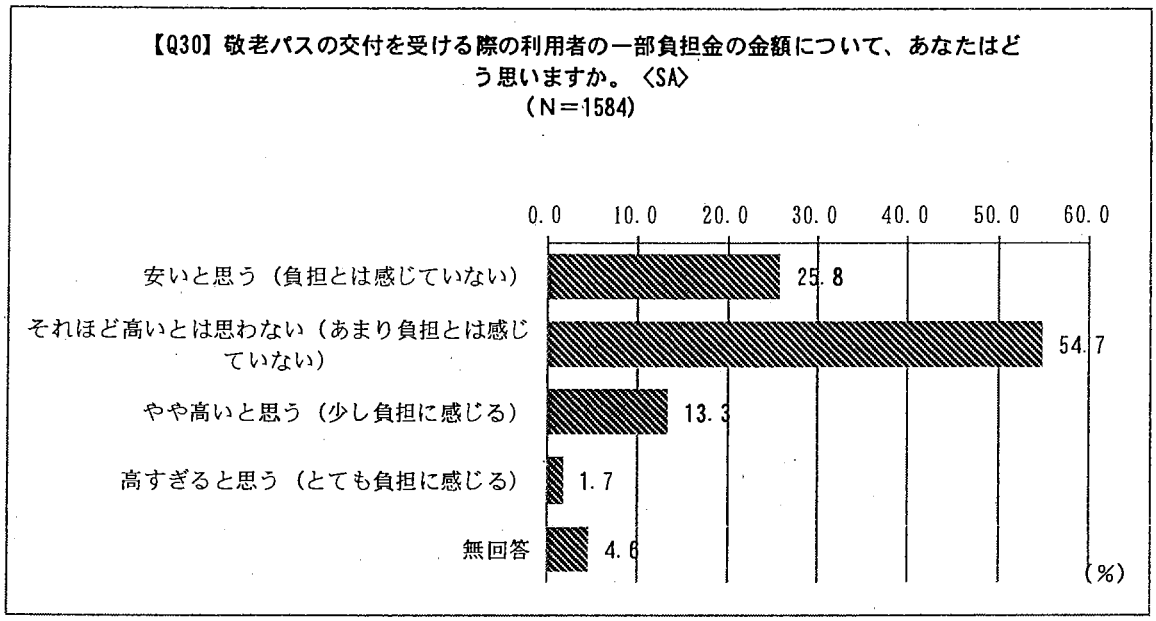
（注）集計条件は以下のとおり。

・敬老パス交付あり（問 20=1 の N=1,584 を母数とした）。

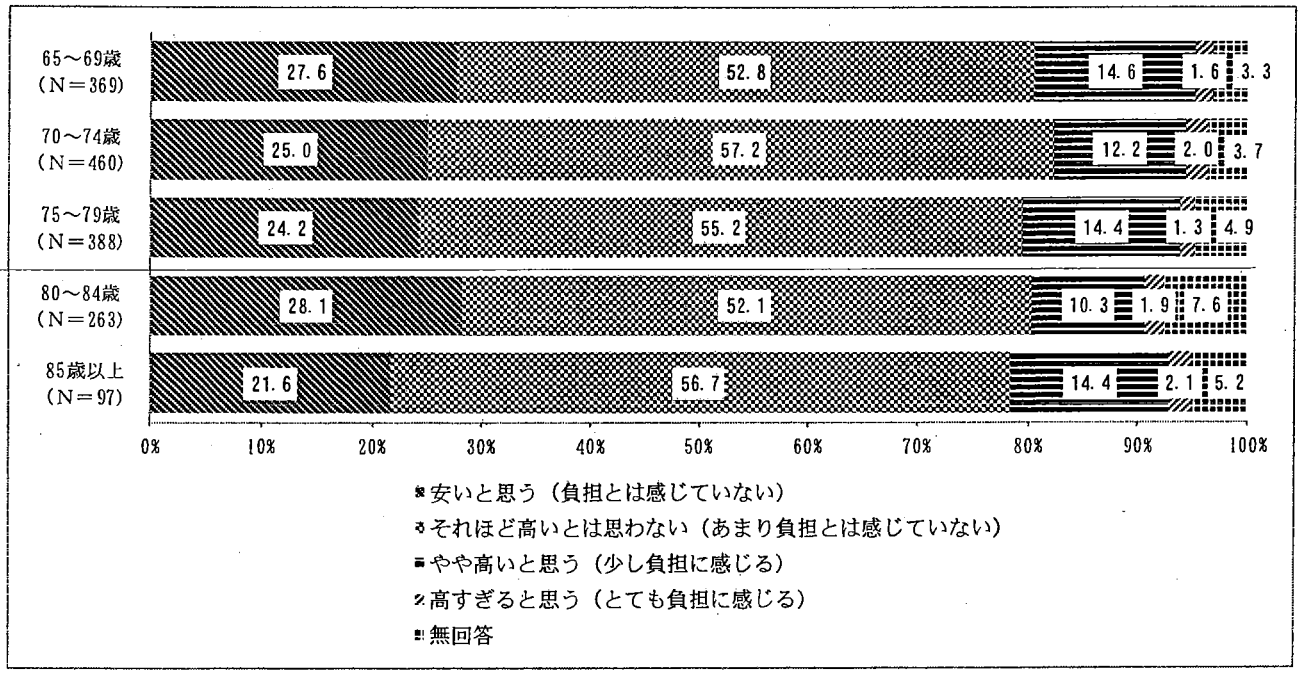
・外れ値の回答者を除く（18,000 円以上の N=54）。

## １－２８．利用者の一部負担金に対する意向

それほど高いとは思わないと回答した人の割合が 54.7%と最も高く、安いと思う人の割合が 25.8%であり、全体の約 8 割は負担と感じていない。負担と感じている人（やや高い、高すぎる）の割合は合わせて 15.0%である。

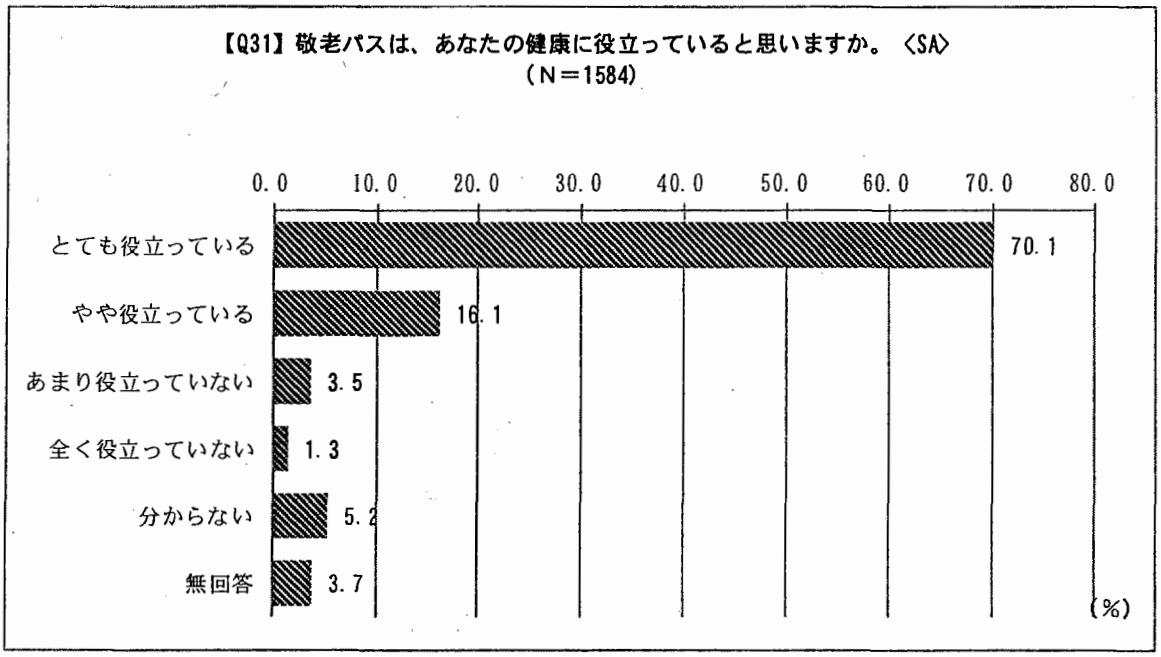



年代別にみて負担感に大きさ差はみられない。

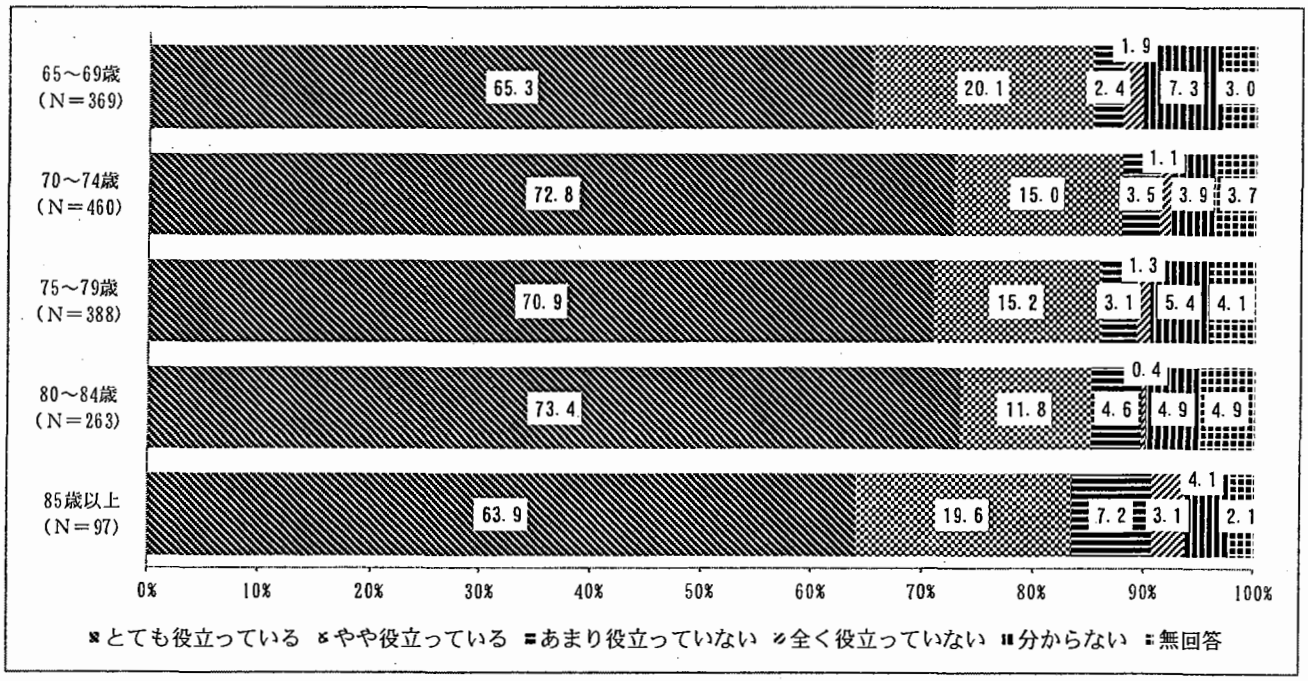


## 1－29.敬老パスと健康

とても役立っていると思っている人が70.1%であり、やや役立っている16.1%を合わせると86.2%が役立っていると思っている。

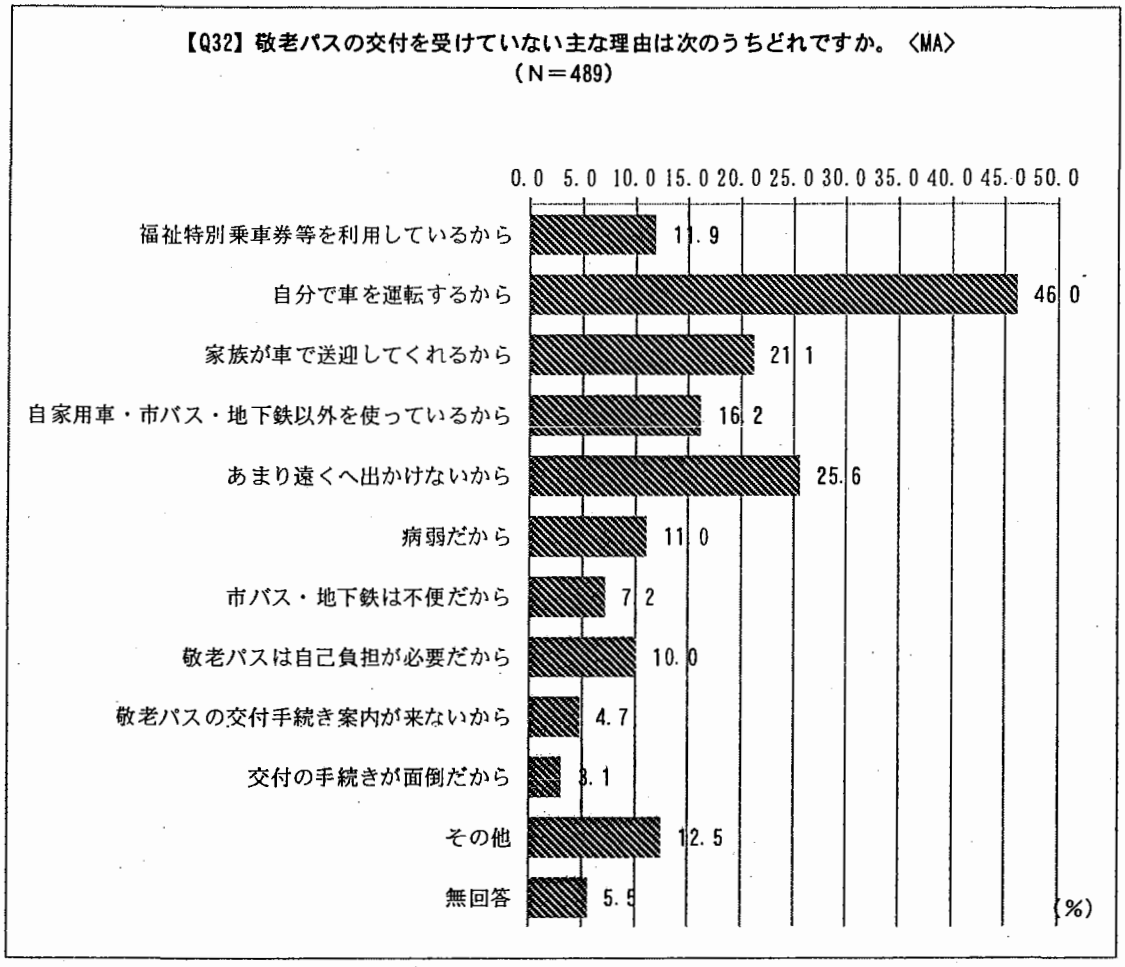


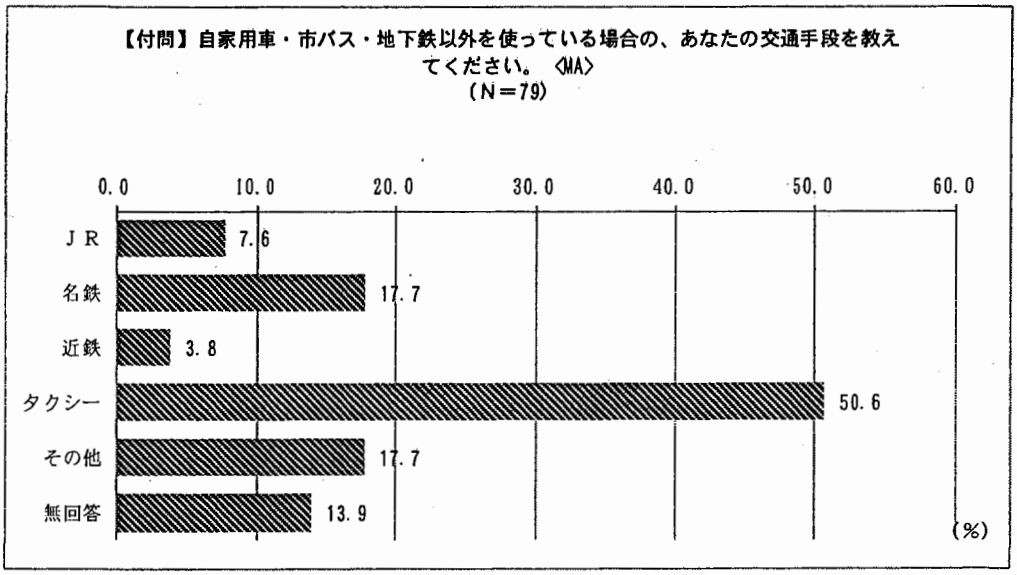

年代別にみると、70～74歳、75～79歳、80～84歳でとても役立っていると思う人の割合が高くなっている。



## １－３０.敬老パスの交付を受けていない理由

自分で車を運転するからという人が 46.0%であり最も高い。次に、あまり遠くに出かけないからという人が25.6%、家族が車で送迎してくれるからという人が21.1%があげられ、67.1%の人は自動車で移動している。自家用車や市バス・地下鉄以外の利用は 16.2%であり、そのうちタクシーの利用が半数を占める。また、福祉特別乗車券利用が 11.9%、自己負担が必要だから 10.0%等の他、病弱だから 11.0%も理由としてあげられている。



（参考）区別集計結果

（各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%）

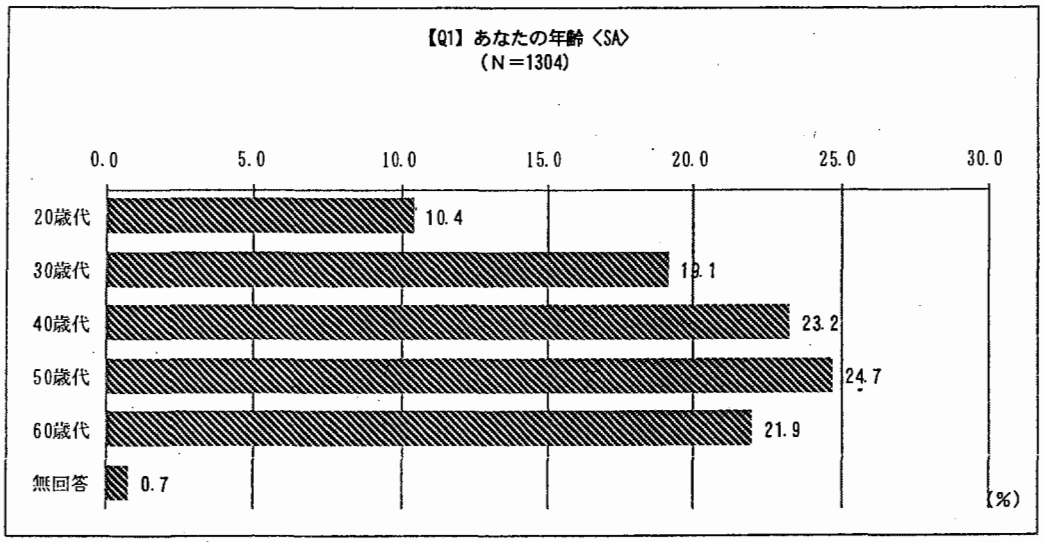
| | 合計 | 福祉特別乗車券等を利用 | 自分で車を運転する | 家族が車で送迎 | 自家用車・市バス・地下鉄以外 | あまり遠くへ出かけない | 病弱だから | 市バス・地下鉄は不便 | 敬老パスは自己負担が必要 | 敬老パスの交付手続き案内が来ない | 交付の手続きが面倒だから | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 485<br>100.0 | 56<br>11.5 | 223<br>46.0 | 103<br>21.2 | 79<br>16.3 | 124<br>25.6 | 54<br>11.1 | 35<br>7.2 | 49<br>10.1 | 23<br>4.7 | 15<br>3.1 | 61<br>12.6 | 27<br>5.6 |
| 千種区 | 28<br>100.0 | 3<br>10.7 | 13<br>46.4 | 5<br>17.9 | 3<br>10.7 | 6<br>21.4 | 5<br>17.9 | 1<br>3.6 | 2<br>7.1 | 1<br>3.6 | 1<br>3.6 | 1<br>3.6 | 2<br>7.1 |
| 東区 | 21<br>100.0 | 4<br>19.0 | 5<br>23.8 | 5<br>23.8 | 6<br>28.6 | 4<br>19.0 | 4<br>19.0 | | 2<br>9.5 | 1<br>4.8 | 1<br>4.8 | 5<br>23.8 | |
| 北区 | 45<br>100.0 | 4<br>8.9 | 20<br>44.4 | 7<br>15.6 | 9<br>20.0 | 15<br>33.3 | 3<br>6.7 | | 7<br>15.6 | 1<br>2.2 | 2<br>4.4 | 3<br>6.7 | 4<br>8.9 |
| 西区 | 40<br>100.0 | 2<br>5.0 | 18<br>45.0 | 5<br>12.5 | 6<br>15.0 | 9<br>22.5 | 4<br>10.0 | 4<br>10.0 | 5<br>12.5 | 2<br>5.0 | | 6<br>15.0 | 4<br>10.0 |
| 中村区 | 43<br>100.0 | 7<br>16.3 | 16<br>37.2 | 9<br>20.9 | 3<br>7.0 | 9<br>20.9 | 5<br>11.6 | | 4<br>9.3 | 2<br>4.7 | 3<br>7.0 | 4<br>9.3 | 1<br>2.3 |
| 中区 | 11<br>100.0 | 1<br>9.1 | 4<br>36.4 | 2<br>18.2 | 2<br>18.2 | 3<br>27.3 | 2<br>18.2 | 2<br>18.2 | 1<br>9.1 | 1<br>9.1 | | | 1<br>9.1 |
| 昭和区 | 19<br>100.0 | 1<br>5.3 | 8<br>42.1 | 5<br>26.3 | 5<br>26.3 | 5<br>26.3 | 2<br>10.5 | | 1<br>5.3 | | | 3<br>15.8 | |
| 瑞穂区 | 14<br>100.0 | 1<br>7.1 | 9<br>64.3 | 2<br>14.3 | 1<br>7.1 | 1<br>7.1 | | 1<br>7.1 | 2<br>14.3 | 1<br>7.1 | 1<br>7.1 | 5<br>35.7 | 1<br>7.1 |
| 熱田区 | 15<br>100.0 | 2<br>13.3 | 6<br>40.0 | 4<br>26.7 | 2<br>13.3 | 9<br>60.0 | | | 2<br>13.3 | | 1<br>6.7 | 3<br>20.0 | 1<br>6.7 |
| 中川区 | 47<br>100.0 | 4<br>8.5 | 22<br>46.8 | 8<br>17.0 | 8<br>17.0 | 14<br>29.8 | 5<br>10.6 | 4<br>8.5 | 1<br>2.1 | 2<br>4.3 | 1<br>2.1 | 7<br>14.9 | 4<br>8.5 |
| 港区 | 32<br>100.0 | 3<br>9.4 | 18<br>56.3 | 6<br>18.8 | 4<br>12.5 | 8<br>25.0 | 4<br>12.5 | 5<br>15.6 | 2<br>6.3 | 1<br>3.1 | 1<br>3.1 | 6<br>18.8 | 3<br>9.4 |
| 南区 | 37<br>100.0 | 4<br>10.8 | 20<br>54.1 | 7<br>18.9 | 7<br>18.9 | 7<br>18.9 | 5<br>13.5 | 3<br>8.1 | 5<br>13.5 | | 1<br>2.7 | 2<br>5.4 | 1<br>2.7 |
| 守山区 | 36<br>100.0 | 4<br>11.1 | 15<br>41.7 | 13<br>36.1 | 8<br>22.2 | 11<br>30.6 | 3<br>8.3 | 5<br>13.9 | 4<br>11.1 | 5<br>13.9 | 1<br>2.8 | 5<br>13.9 | 2<br>5.6 |
| 緑区 | 52<br>100.0 | 4<br>7.7 | 31<br>59.6 | 13<br>25.0 | 10<br>19.2 | 15<br>28.8 | 4<br>7.7 | 8<br>15.4 | 9<br>17.3 | 3<br>5.8 | 1<br>1.9 | 6<br>11.5 | 1<br>1.9 |
| 名東区 | 21<br>100.0 | 6<br>28.6 | 7<br>33.3 | 8<br>38.1 | 3<br>14.3 | 2<br>9.5 | 3<br>14.3 | 1<br>4.8 | 1<br>4.8 | 2<br>9.5 | 1<br>4.8 | 3<br>14.3 | 1<br>4.8 |
| 天白区 | 24<br>100.0 | 6<br>25.0 | 11<br>45.8 | 4<br>16.7 | 2<br>8.3 | 6<br>25.0 | 5<br>20.8 | 1<br>4.2 | 1<br>4.2 | 1<br>4.2 | | 2<br>8.3 | 1<br>4.2 |

※空欄は回答なし（0件）

## 2　20～64歳の方アンケート

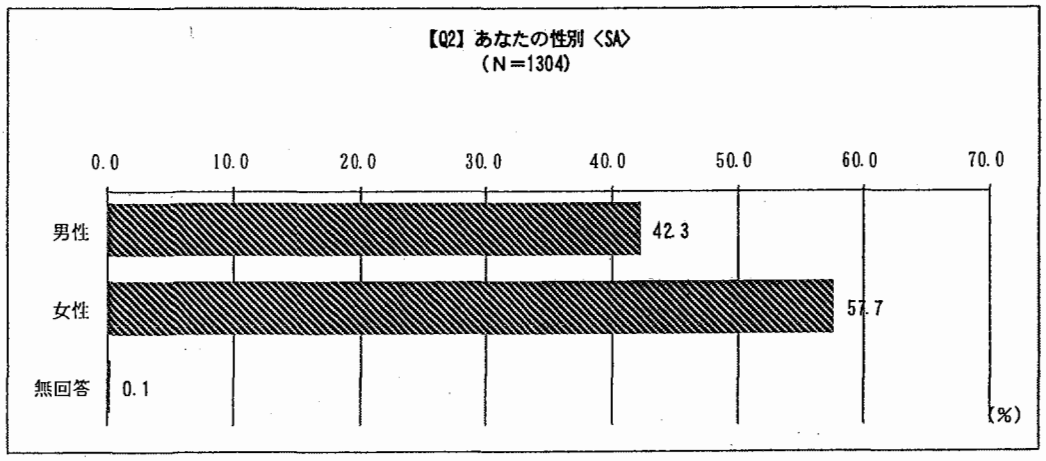
### 2－1.回答者の性・年齢

50歳代の回答が24.7%、40歳代が23.2%であり、年齢が若いほど回答率が低い傾向がみられる。




| 人口構成比 | 回答率 |
|---|---|
| 19.6 | -9.2% |
| 24.5 | -5.4% |
| 25.0 | -1.8% |
| 19.1 | +5.6% |
| 11.8 | +10.1% |
| — | |

人口構成比と比較すると男性の方が回答率はやや高い。

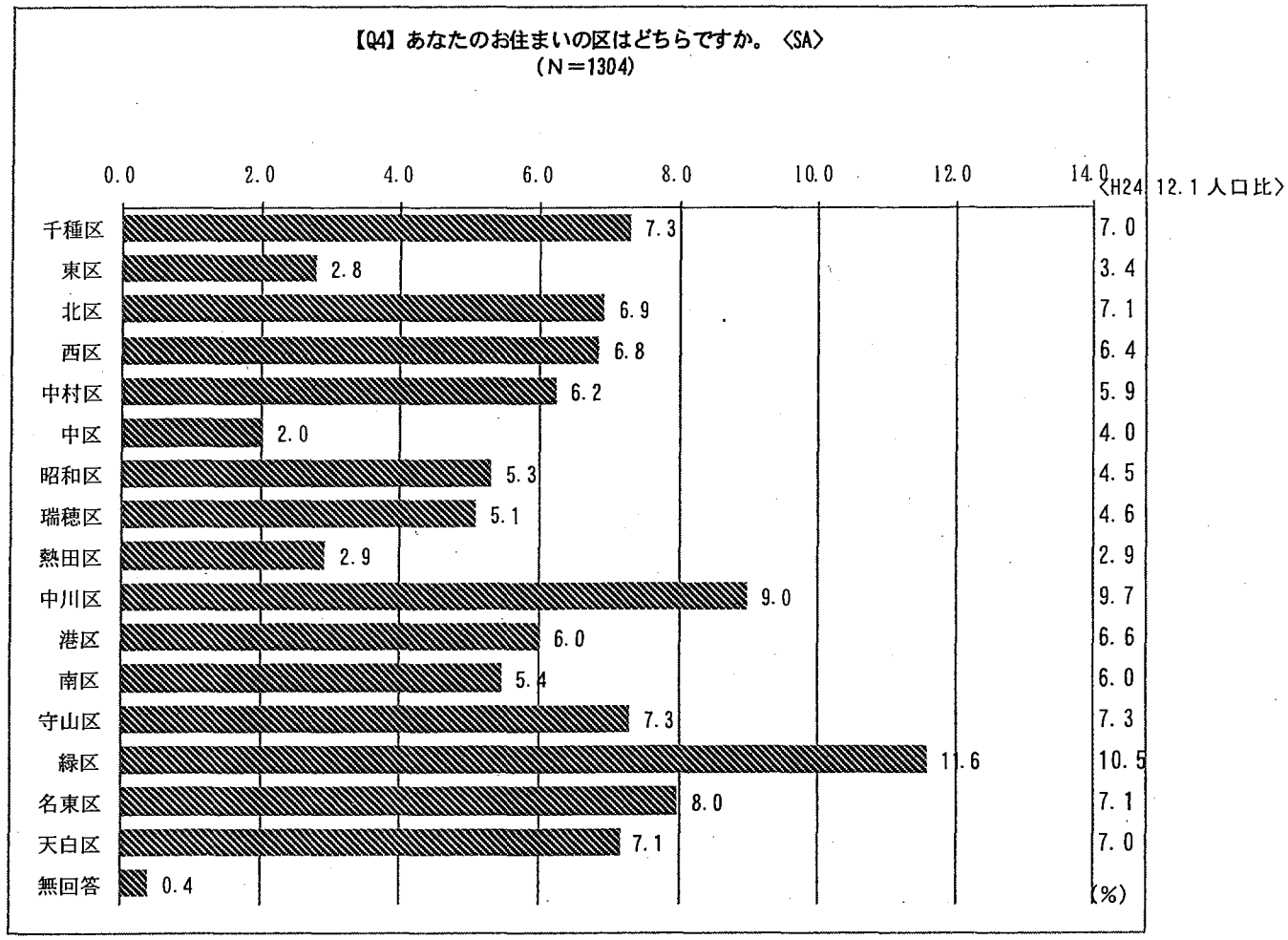



| 人口構成比 |
|---|
| 48.8 |
| 51.2 |

※人口構成比は平成24年12月1日現在

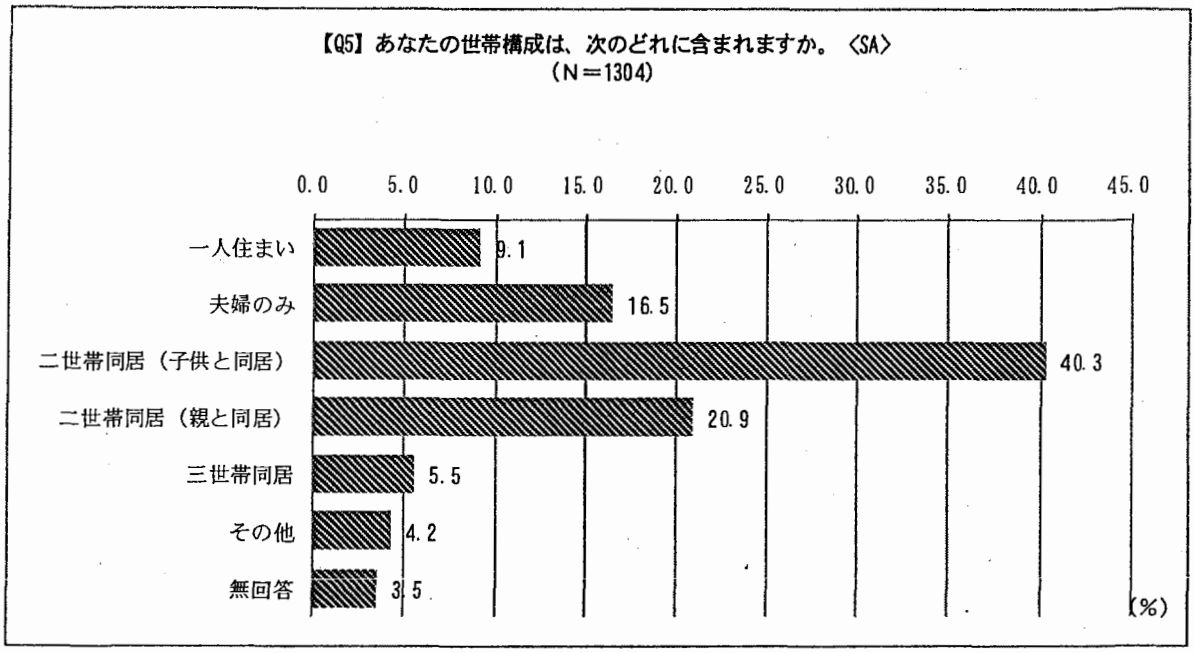
## 2－2.区別の回答者数

回答数は人口が多い緑区、中川区、千種区、北区、西区で多くなっているが、人口に対する回答率に区別の極端な相違はない。



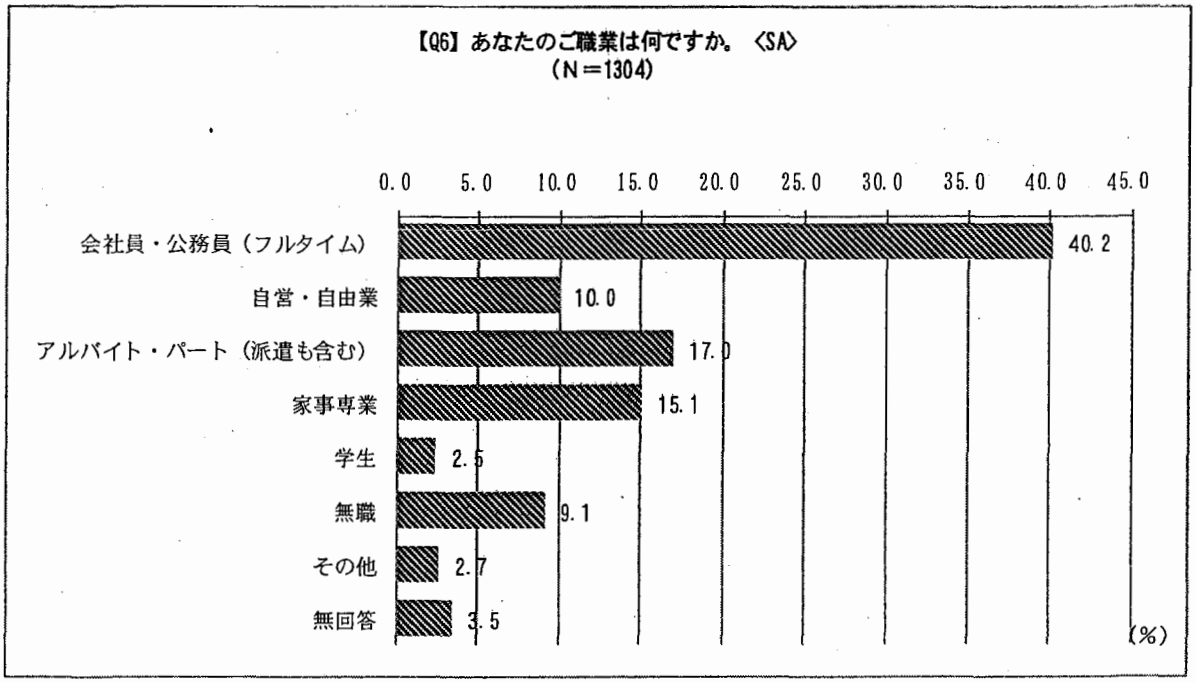
## ２－３．世帯構成

「二世帯同居」が最も高く、子供と同居 40.3%、親と同居 20.9%である。
夫婦のみが 16.5%、一人住まいが 9.1%である。



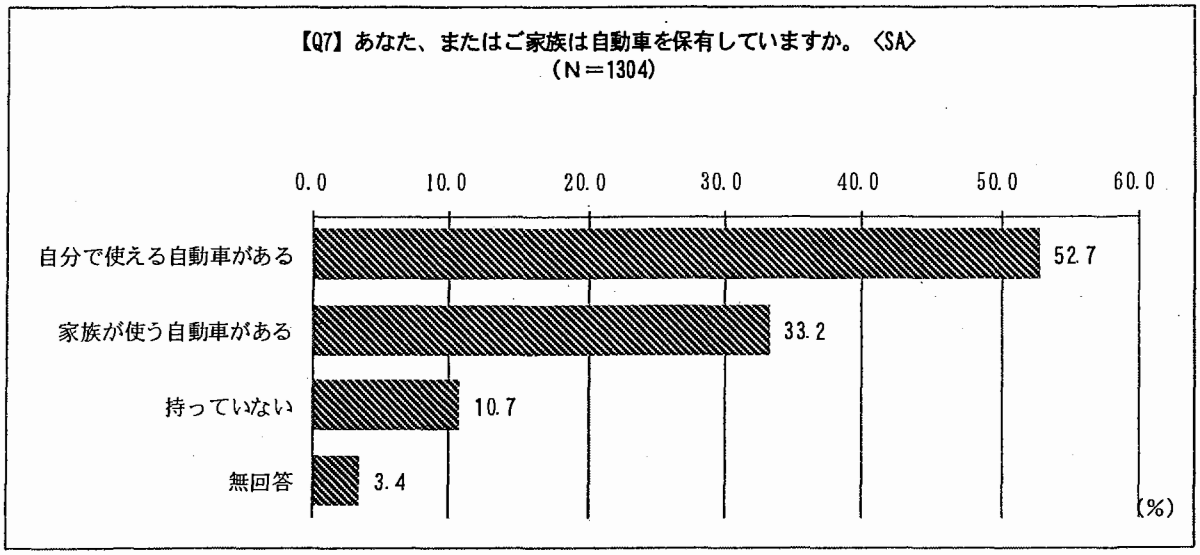

## ２－４．回答者の職業

会社員・公務員が 40.2%、次がアルバイト・パートの 17.0%、家事専業が 15.1%である。
また、無職が 9.1%である。



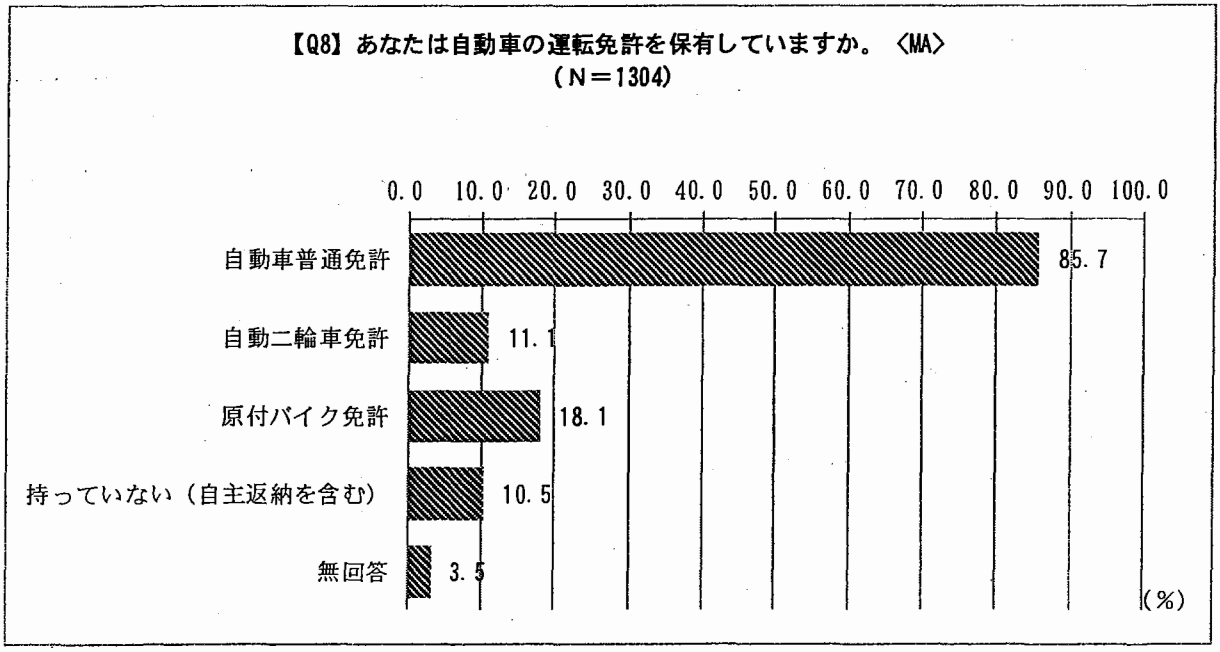
## ２－５．自動車の保有状況

高齢者自身が使える自動車を保有している人が全体の 52.7%、家族が使う自動車があるが 33.2%であり、全体の 85.9%は自動車を利用できる。



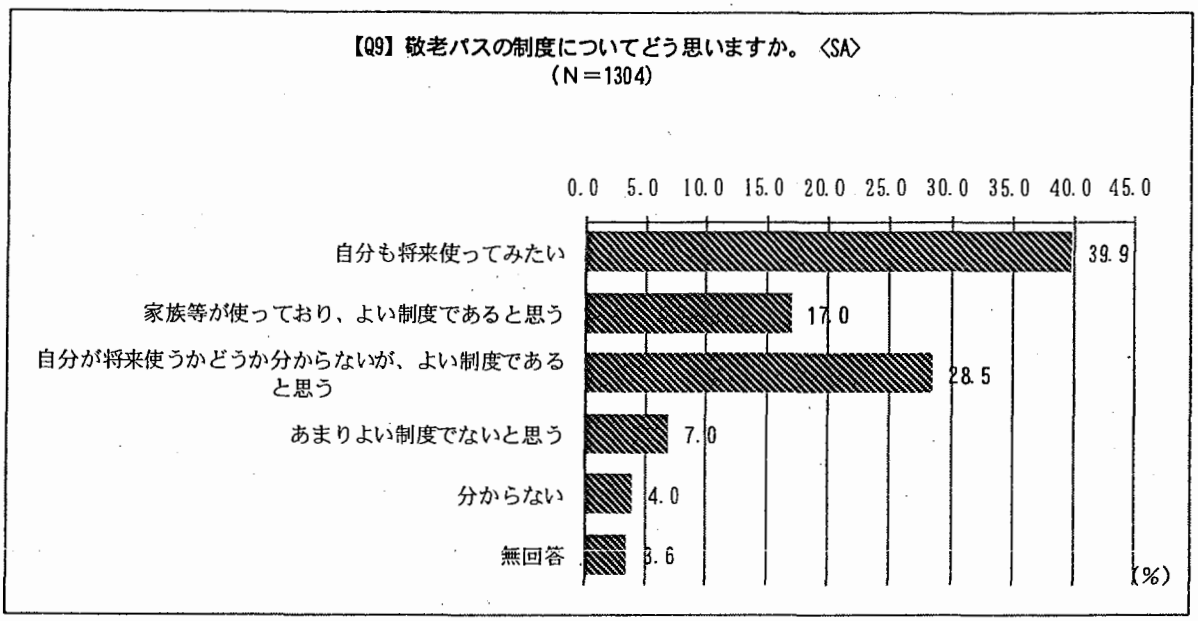

## ２－６．自動車の運転免許の有無

自動車普通免許が 85.7%、自動二輪車・原付バイクの免許保有は 29.1%であり、「持っていない」は 10.5%である。

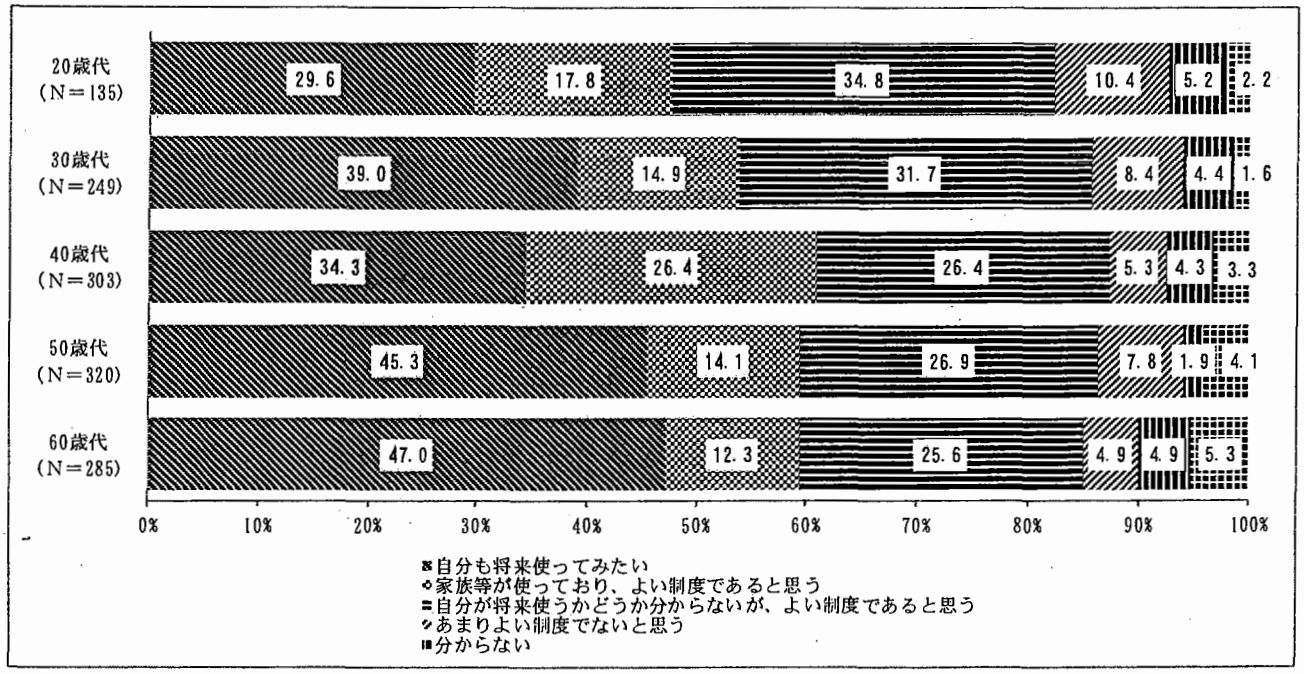


## ２－７．敬老パス制度に対する意向

自分も将来使ってみたいが 39.9%、自分が将来使うかどうかわからないがよい制度であるが 28.5%であり、全体の 85.4%は制度をよいと評価している。

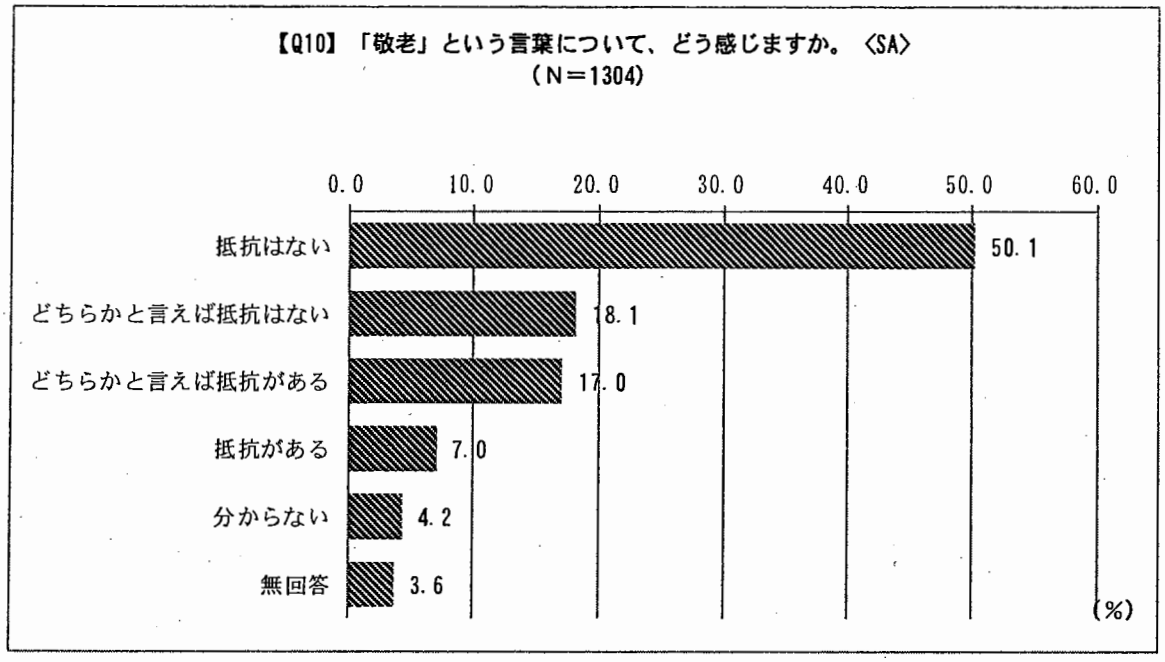



年代別にみると、50 歳代、60 歳代は自分も将来使ってみたいがそれぞれ 45.3%、47.0%まで高まる。

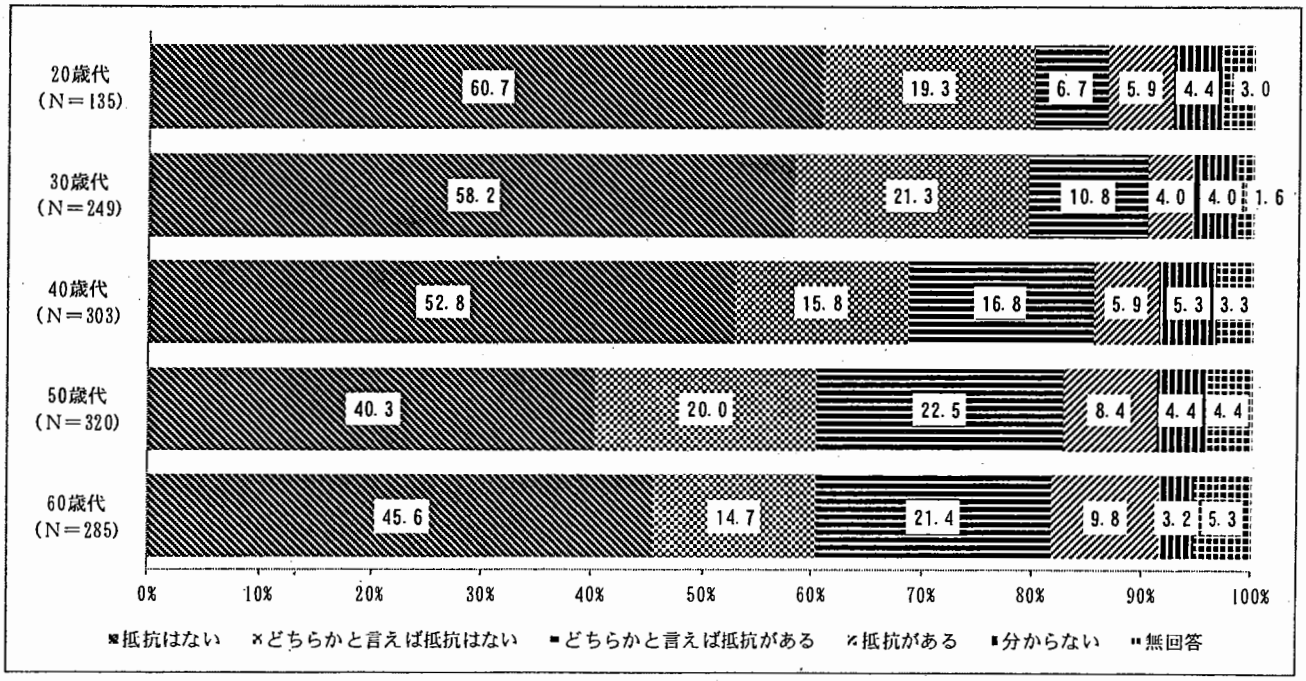


## 2－8.敬老という言葉について

抵抗はない（抵抗はない、どちらかと言えば抵抗はない）人が合わせて 68.2%であり、抵抗がある人の 24%を大きく上回っている。

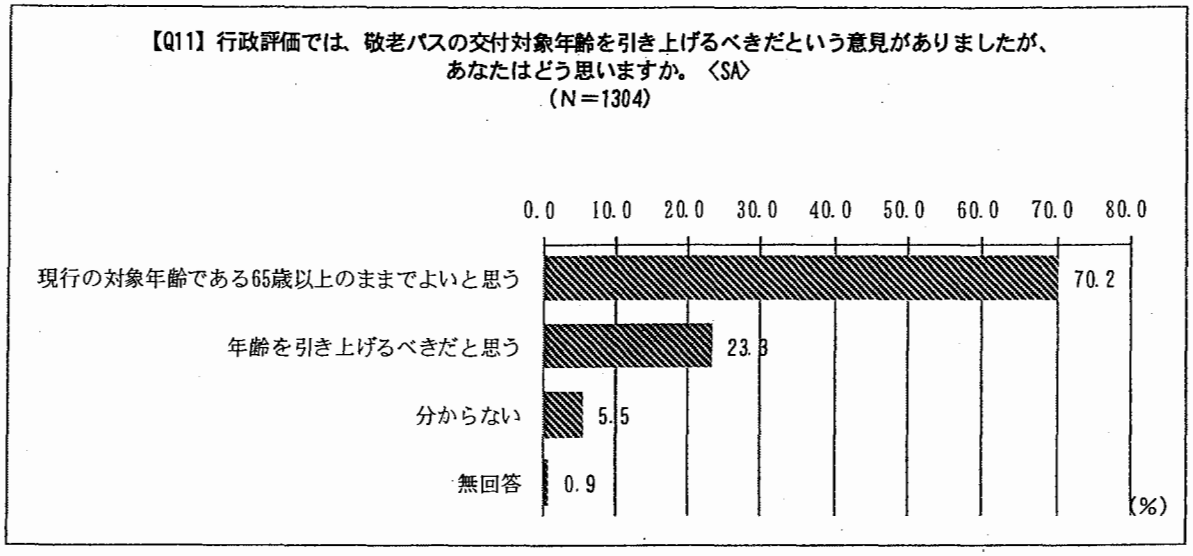



年代別にみると、年代が高くなるほど抵抗がある人の割合が大きくなるが、50 歳代、60 歳代でも抵抗はない（抵抗はない、どちらかと言えば抵抗はない）人が合わせて 60%を超えている。

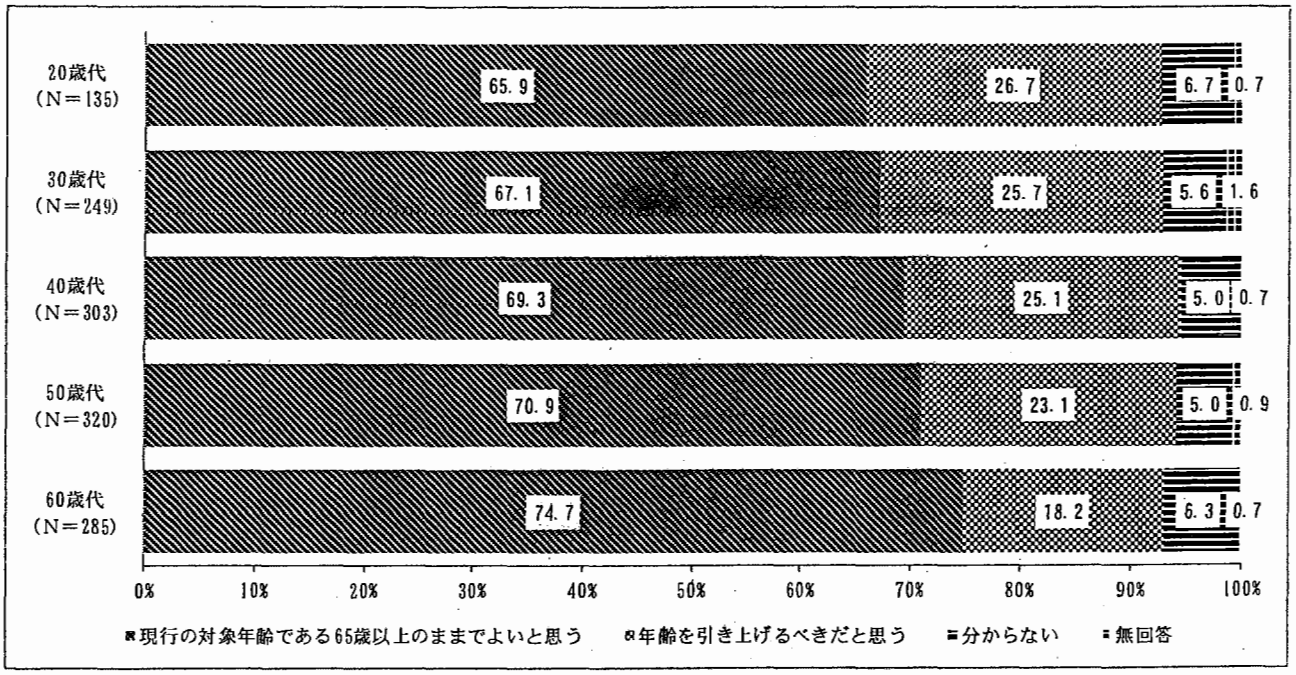


## 2－9.敬老パスの対象年齢について

現行の 65 歳以上でよいとする人が 70.2%と最も高く、年齢を引き上げるべきとする人は 23.3%である。

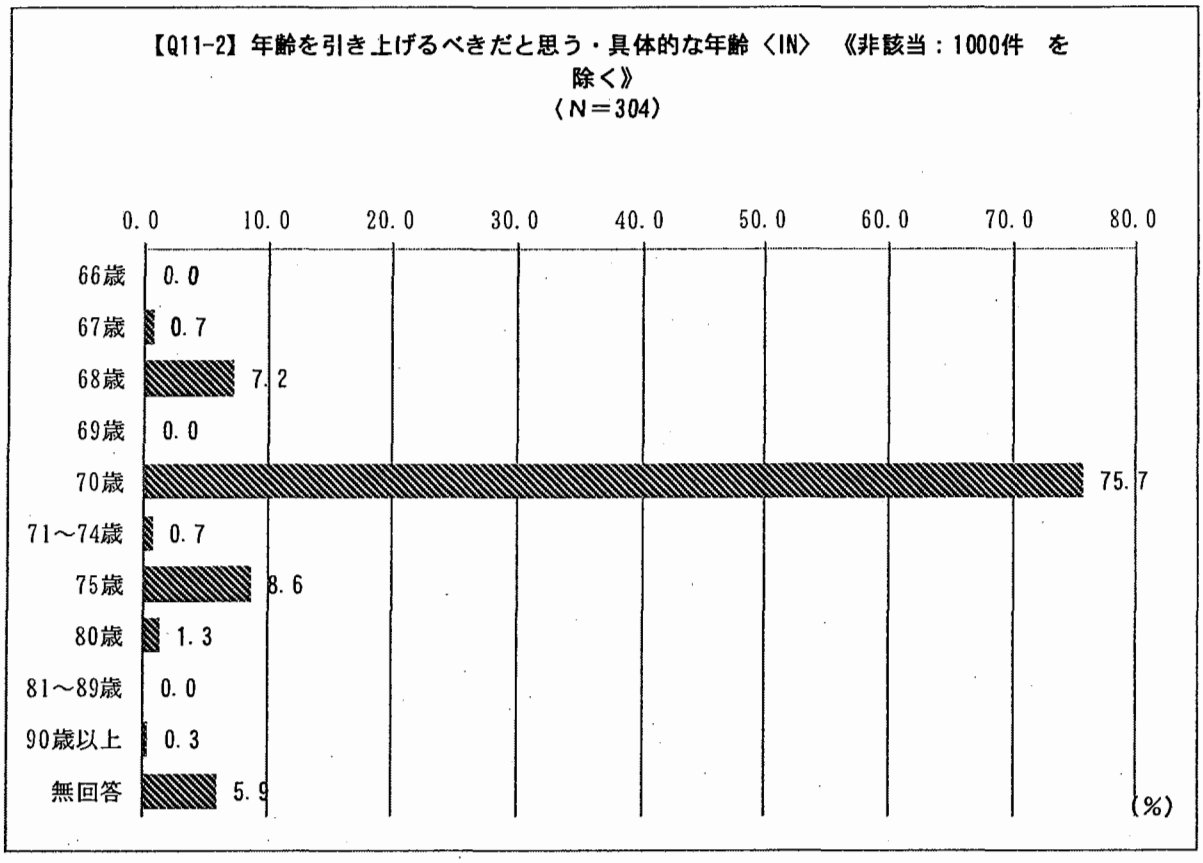



年代別にみると、年代が高くなるほど現行の 65 歳以上でよいとする人の割合が大きくなるが、最も若い 20 歳代でも現行の 65 歳以上でよいとする人の割合が 66%を占める。



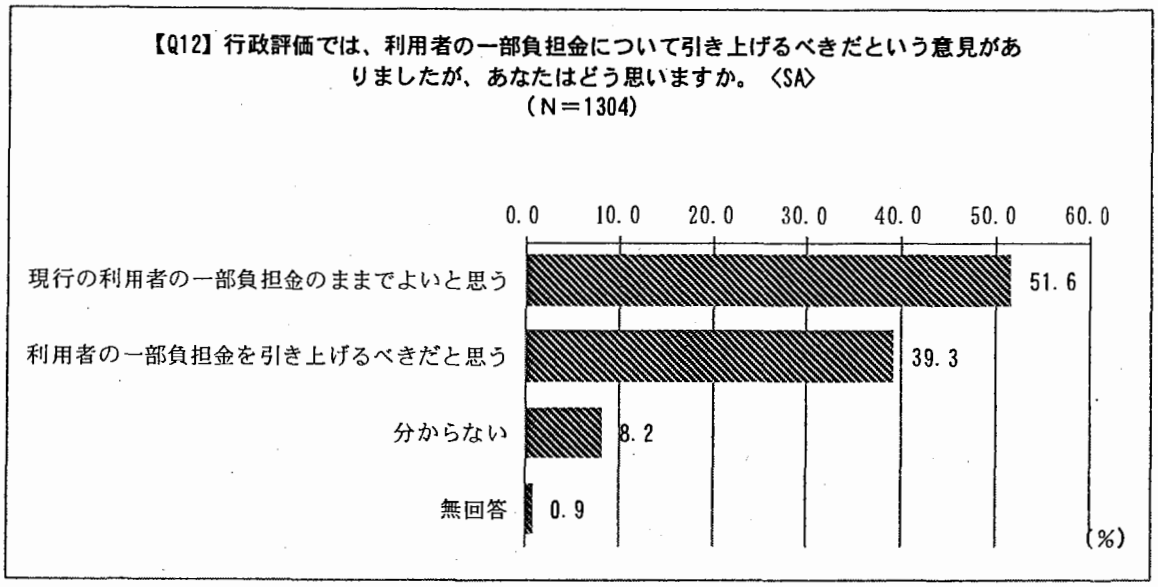
具体的な引き上げ年齢

敬老パスの対象年齢を引き上げるべきという回答を選んだ人に対して、その年齢について聞いたところ 70 歳という回答が全体の 75.7%を占めている。

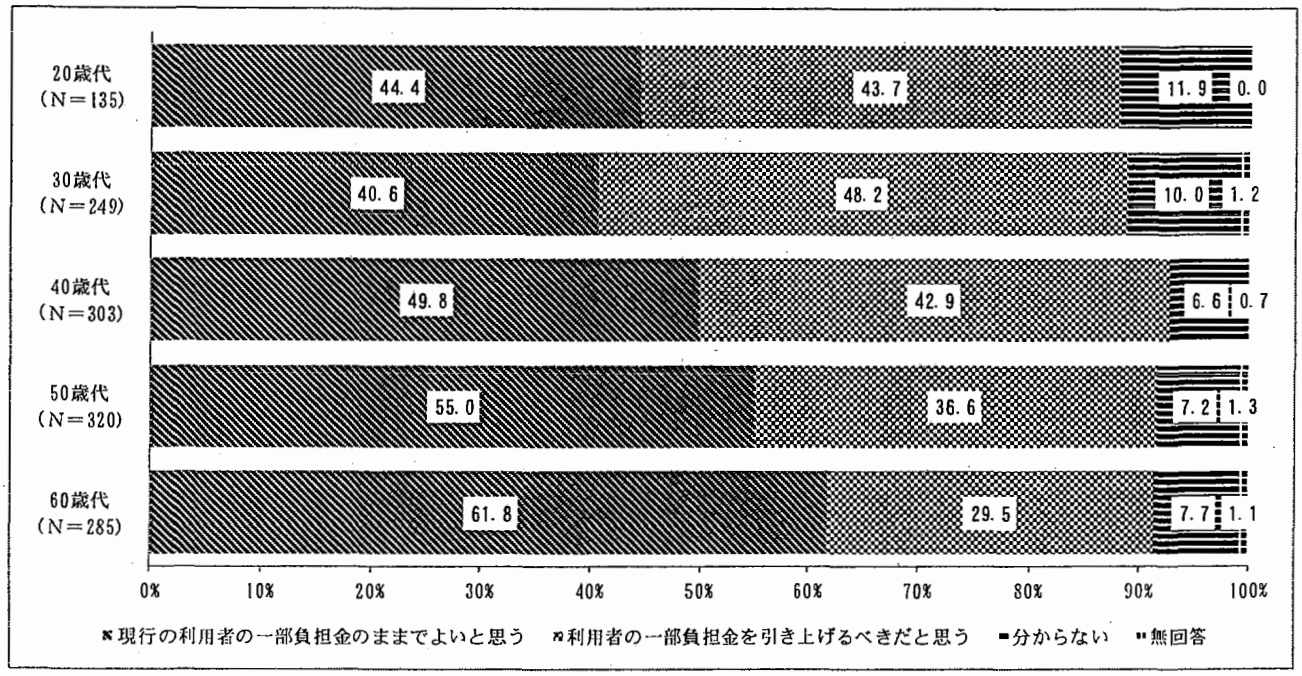


## ２－１０．利用者の一部負担金について

現行の一部負担金のままでよいとする回答は 51.6%であり、一部負担金を引き上げるべきとする人は 39.3%である。

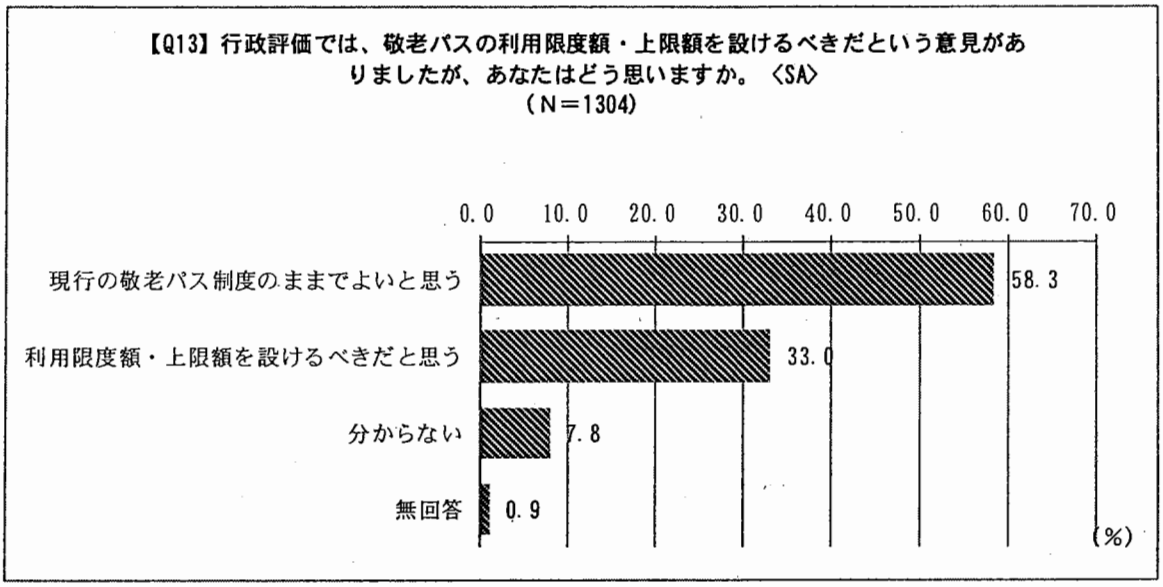



年代別にみると、年代が高まるほど現行の利用の負担金のままでよいとする回答の割合が大きくなる。20、30 歳代は一部負担金を引き上げるべきだという回答が多くなる。

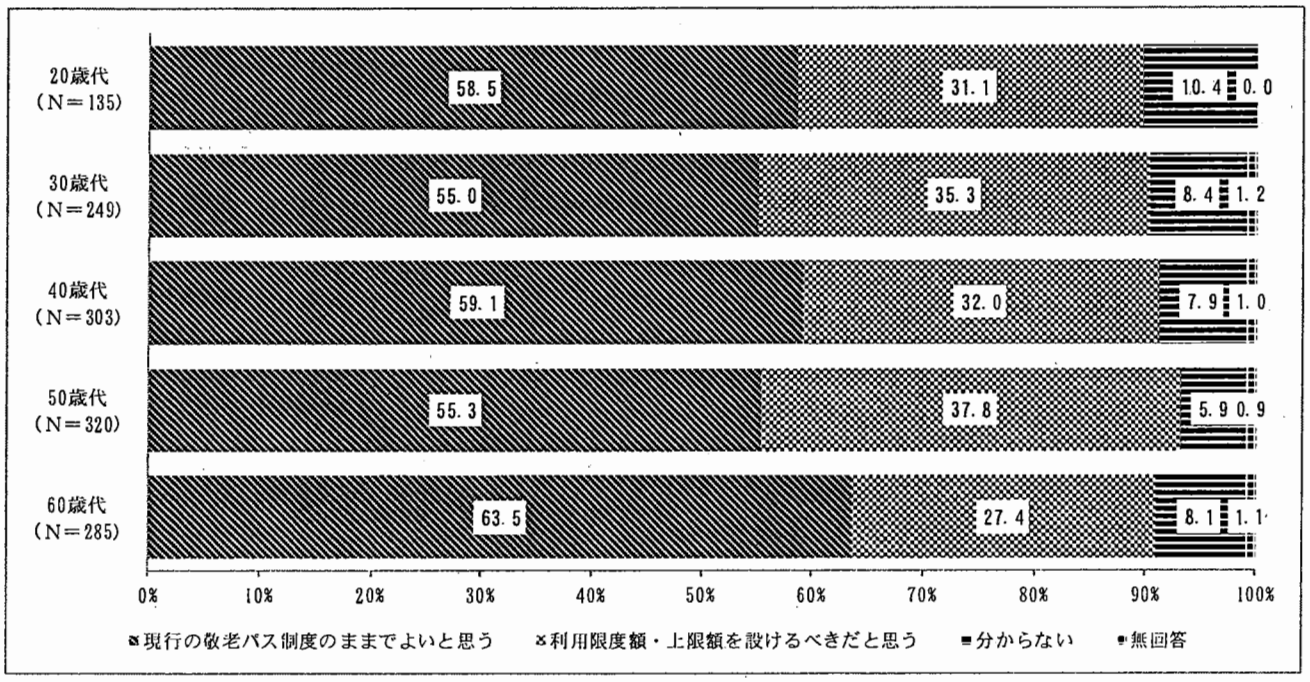


## ２－１１．敬老パスの利用限度額・上限額を設けることについて

現行の制度でよいとする人は 58.3%、利用限度額・上限額を設けるべきとする人は 33%である。




年代別にみると、60 歳代で現行の制度でよいとする回答の割合が 63.5%と高いが、その他の年代では年代による回答の違いは比較的小さい。



（参考）外れ値の検定方法（スミルノフ・グラブス検定）

アンケートの回答データ中に、他のデータに比べて異常な値が有った場合、そのデータは回答ミス、あるいは平均値を算出する上で適切でない特異的な回答として、棄却すべきかどうかを検定する。

具体的には、スミルノフ・グラブス検定を用い、母集団を正規分布と仮定し、異常値がその範囲を超えているかどうかを検定する。

（計算式）

$$Tn = \frac{[\text{データ値}(Xn)] - [\text{標本平均}(\mu)]}{\text{標本標準偏差}(\sigma)}$$

上記の値を計算し、スミルノフ・グラブス検定の有意点$\alpha$（片側）の表の値以上であれば外れ値とする。この検定では，１回につき１個の外れ値を検出する。複数個の外れ値がある場合は，最も大きなものについてまず検定を行い，それが外れ値だとすると次の段階ではそれを除いた n-1 個のデータについて同じように検定を行うということを繰り返す。なお、有意水準$\alpha$=0.05 としている。